Revit や Navisworks と連携！ オートデスクのクラウド製品活用
コラボレーションツール BIM 360 活用オンラインセミナー vol.8

オートデスク技術営業部

2021.07.08

AUTODESK

© 2020 Autodesk, Inc.

AUTODESK

免責事項

- 本プレゼンテーションには当社の将来の経営成績、業績、実績、ならびにその他、年次報告書および四半期報告書の指針についての将来予想に関する記述が含まれています。

- さらに本プレゼンテーションには当社の既存または新規の製品およびサービスのために計画されている、または将来の開発努力に関する将来予想に関する記述が含まれています。かかる発表は、業績、製品、サービス、または機能の将来的な提供を約束または保証することを意図するものではなく、単にその時点でのオートデスクの計画を反映するものであり、その時点で判明している要因に基づくものです。かかる計画中または将来の開発取り組みは予告なく変更が生じる可能性があります。したがって、購入および投資に関して決定する際にかかる発表を拠り所としないでください。

- かかる記述は現在入手可能な情報に鑑みてなされた当社の経営陣による現状の予想、予測、仮定を反映したものであり、将来の業績を保証するものではありません。重大なリスク、不確実性ならびにその他の要因が内在しており、実際の経営成績、業績、実績は、本プレゼンテーションの将来予想に関する記述で明示または暗示されたものと大きく異なる場合があります。

- 当社の将来の業績に影響を与える可能性のある要因（オートデスクならびに本プレゼンテーションの将来予想に関する記述に影響を与える可能性のあるリスク要因も含む）は、直近の会計年度末の年次報告書Form 10-K、ならびに四半期末の Form 10-Q に記載されており、これらは米国証券取引委員会に提出されています。本プレゼンテーションが作成日以降に修正され、その後オートデスクからやWeb サイトまたはその他の方法で入手可能になった場合、最新または正確な情報を反映していない場合があります。

- オートデスクは、かかる発表が行われた日以降に発生した出来事、もしくは存在または変化した状況を反映するために、かかる将来的な発表を更新する義務を負いません。

第8回 BIM 360 活用オンラインセミナー

本日の内容

Autodeskからのお知らせ

- **Autodesk Docsの販売開始**
  - →既存のBIM360 Docsの契約はAutodesk Docsに自動でアップグレードされます。

RevitやNavisworksとCDEとしてのACC/BIM360の連携

- **システムの全体像のイメージ**
- **連携前の確認と準備**
  - CDEとして利用するために必要なACC/BIM360の準備
  - Autodesk製品を利用するために必要なライセンスの確認
- **Revit、Naviswoksの準備**
  - Revit,Navisworksのバージョン確認
  - BIM360のプロジェクトの準備
- **Revit、NavisworksからACC/BIM360へのアクセス方法**
  - RevitからACC/BIM360へのアクセス（クラウドモデル保存）
  - NavisworksからModel Coordinationへのアクセス

過去のBIM360 活用 オンラインセミナーについて

- **Youtubeの「コラボレーションツール BIM 360 活用」再生リストを御覧ください**

お知らせ：Autodesk Docsの単体販売

2021年7月7日よりAutodesk Docsが単体販売されます。

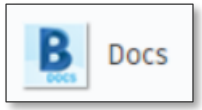
既存のBIM360 Docsの契約はAutodesk Docsに自動でアップグレードされます。

ライセンス管理方法が、サブスクリプション・ライセンス管理になり、BYOSによる他社へのサブスクリプション持ち込みが可能になります。

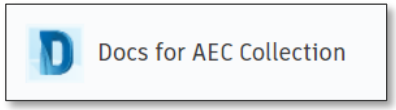
Autodesk Docsの単体販売に伴う注意点

ライセンスの取り扱いがサブスクリプション・ライセンスに一本化されます。4

- **2021年7月7日よりAutodesk Docsが単体販売されます**
  - 値段はBIM360 Docsと同じです。
  - 7/7以降はBIM360 Docsの販売はありません。Autodesk Docsに置き換わります。
- **既存のBIM360 Docsの契約は、自動でAutodesk Docsにアップグレードされます。**
  - 2021年2月に行われたBIM360 Design→BIM Collaborate Proへの移行と同じような措置になります。
  - サブスクリプション・ライセンス管理画面に、「Docs」のライセンスがあることをご確認ください。



←BIM360 Docsから置き換わった
Autodesk Docs



←AECCのマルチユーザーに付与された
Autodesk Docs

- **自動アップグレードに伴う変更点**
  - ライセンス管理が「サブスクリプション・ライセンス」に変わります
    - メリット：BYOSが可能になります＝自社のACCテナントサイトだけでなく、他社のACCテナントサイトに参加できます。
    - デメリット：個々のAutodeskアカウントにサブスクリプション・ライセンスの割り当てが必要です。

      ※1：自動アップグレードにて既存のBIM360の利用ができなくなることはありません。

      ※2：ただし、LCの観点からサブスクリプション・ライセンスの割り当ては早めにご対応ください。

BIM360製品とACC製品の関係(7/7以前)

契約対象の製品と利用できる機能モジュール(サービス)の組合せ

※プラットフォームの機能

※各ソフトウェアへの追加機能

AUTODESK BIM 360 DOCS
- Document Management

※BIM360 Docsのみ
継続販売

AUTODESK BIM 360 DESIGN
- Document Management
- Design Collaboration
- Revit Cloud Worksharing
- BYOS (Bring your own Subscription)

AUTODESK BIM 360 COORDINATE
- Document Management
- Model Coordination

現場測定機器との連携
- BIM360 Layout ※Android

AUTODESK BIM 360 BUILD
- Document Management
- Project Management
- Field Management
- Assets
- Cost Management ※アドオン

↑それぞれ、契約更新時に新しい製品を新規契約になります。↑

※BIM360 Designは
BIM Collaborate Proに自動アップデートされています

AUTODESK DOCS
ACC機能モジュール
- Docs

※Autodesk Docsの単体販売はなし
AEC-Collectionに付属
AUTODESK ARCHITECTURE, ENGINEERING & CONSTRUCTION COLLECTION

AUTODESK BIM COLLABORATE
ACC機能モジュール
- Docs
- Design Collaboration
- Model Coordination
- BIM360 Layout

AUTODESK BIM COLLABORATE PRO
ソフトウェアの追加機能
- Revit Cloud Worksharing
- Collaborate for Civil 3D
- Collaborate for Plant 3D

AUTODESK TAKEOFF
ACC機能モジュール
- Docs
- Takeoff

AUTODESK BUILD
ACC機能モジュール
- Docs
- Build
- Cost

BIM360製品とACC製品の関係(7/7以降)

契約対象の製品と利用できる機能モジュール(サービス)の組合せ

※プラットフォームの機能

※各ソフトウェアへの追加機能

AUTODESK BIM 360 DOCS
- Document Management

AUTODESK BIM 360 DESIGN
- Document Management
- Design Collaboration
- Revit Cloud Worksharing
- BYOS (Bring your own Subscription)

AUTODESK BIM 360 COORDINATE
- Document Management
- Model Coordination

現場測定機器との連携
- BIM360 Layout ※Android

AUTODESK BIM 360 BUILD
- Document Management
- Project Management
- Field Management
- Assets
- Cost Management ※アドオン

↑それぞれ、契約更新時に新しい製品を新規契約になります。↑

※自動アップグレード(2021.7)

AUTODESK DOCS
ACC機能モジュール
- Docs

※AEC-Collectionにも付属します

AUTODESK ARCHITECTURE, ENGINEERING & CONSTRUCTION COLLECTION

AUTODESK BIM COLLABORATE
ACC機能モジュール
- Docs
- Design Collaboration
- Model Coordination
- BIM360 Layout

＋

AUTODESK BIM COLLABORATE PRO
ソフトウェアの追加機能
- Revit Cloud Worksharing
- Collaborate for Civil 3D
- Collaborate for Plant 3D

AUTODESK TAKEOFF
ACC機能モジュール
- Docs
- Takeoff

AUTODESK BUILD
ACC機能モジュール
- Docs
- Build
- Cost

ACC製品パッケージと機能モジュール(7/7以降)

契約対象の製品と利用できる機能モジュール(サービス)の組合せ

※プラットフォームの機能

※各ソフトウェアへの追加機能

AUTODESK ARCHITECTURE, ENGINEERING & CONSTRUCTION COLLECTION

機能モジュール

- Docs
  - 共通データ管理基盤(CDE)
    - データファイルの管理や閲覧
    - 指摘事項機能によるtodo管理

(管理用モジュール)

- Account Admin
- Project Admin
- Insight

- AutoCAD
- Revit
- Navisworks

など

AUTODESK DOCS

機能モジュール

- Docs
  - 共通データ管理基盤(CDE)
    - データファイルの管理や閲覧
    - 指摘事項機能によるtodo管理

(管理用モジュール)

- Account Admin
- Project Admin
- Insight

AUTODESK BIM COLLABORATE

機能モジュール

- Docs
- Design Collaboration
  - 複数BIMモデルの進捗管理
- Model Coordination
  - モデルの統合と干渉チェック

現場測定機器との連携

- BIM360 Layout
  - BIMモデルと測量機器の連携

※Android

(管理用モジュール)

- Account Admin
- Project Admin
- Insight

AUTODESK BIM COLLABORATE PRO

ソフトウェアの追加機能

- Revit Cloud Worksharing
- Collaborate for Civil 3D
- Collaborate for Plant 3D

AUTODESK TAKEOFF

機能モジュール

- Docs
- Takeoff
  - 2Dと3Dの積算

(管理用モジュール)

- Account Admin
- Project Admin
- Insight

AUTODESK BUILD

機能モジュール

- Docs
- Build
  - 設計と施工の情報管理
- Cost
  - 予算管理

Buildは発行シート枚数制限によって3種類

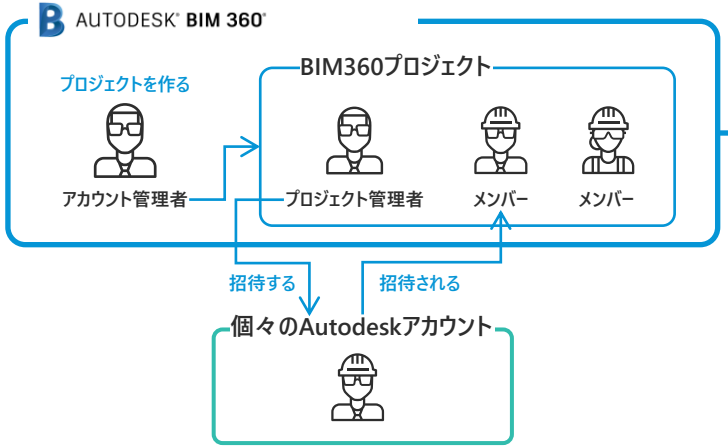
- Build-550
- Build-5000
- Build-Unlimited

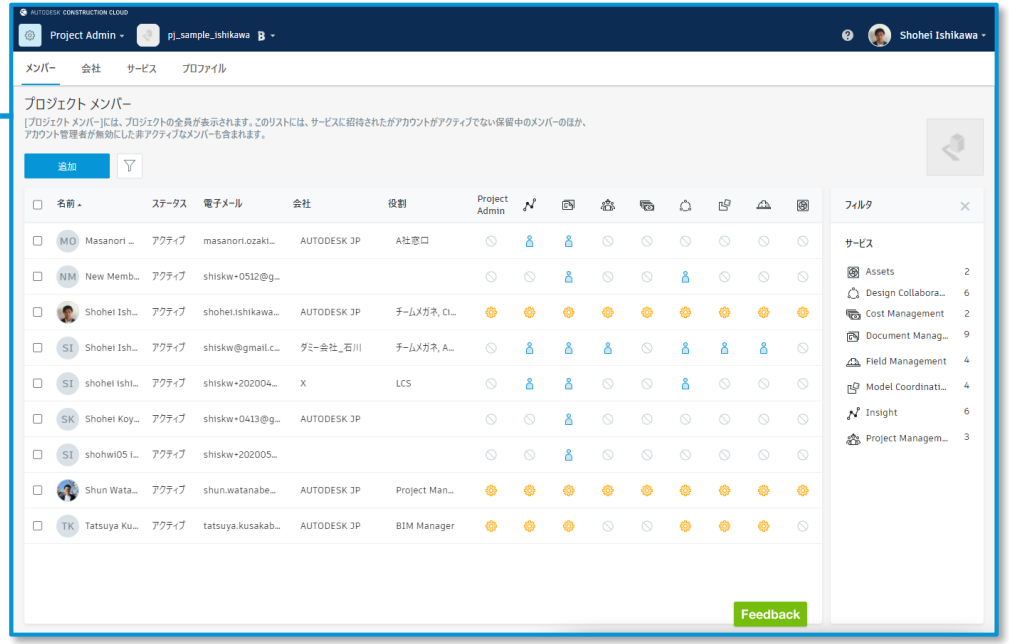
(管理用モジュール)

- Account Admin
- Project Admin
- Insight

BIM360の管理はBIM360に招待するだけでしたが…

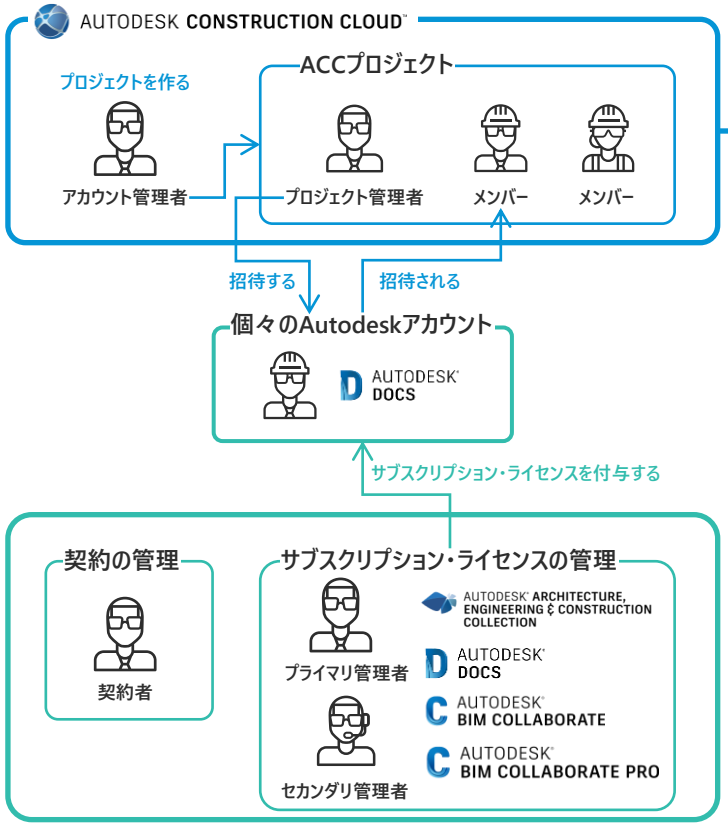
招待すると同時に契約シートが利用される

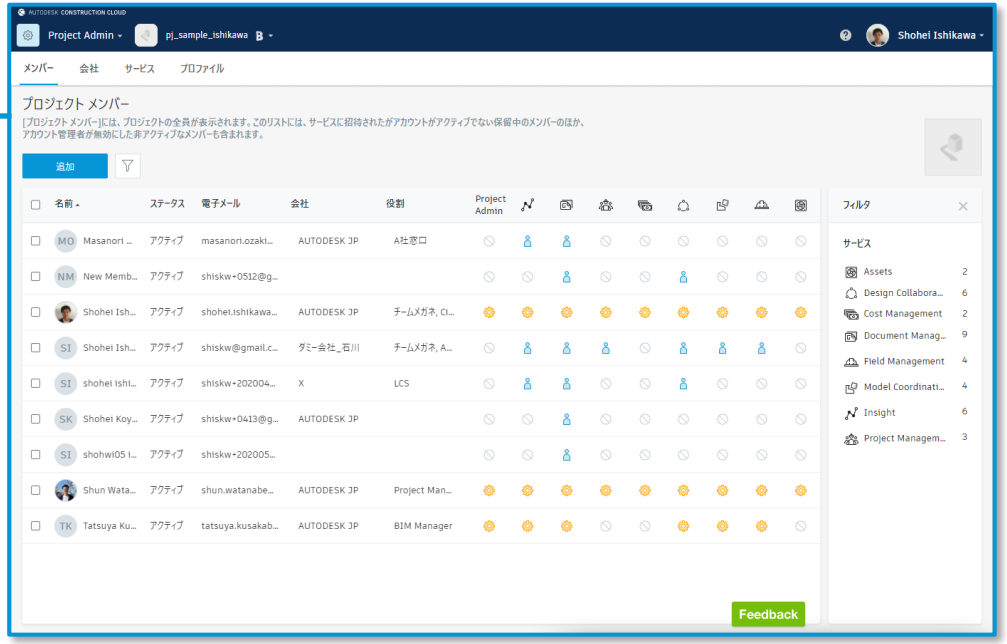




今後は、サブスクリプション・ライセンス管理も必要になります

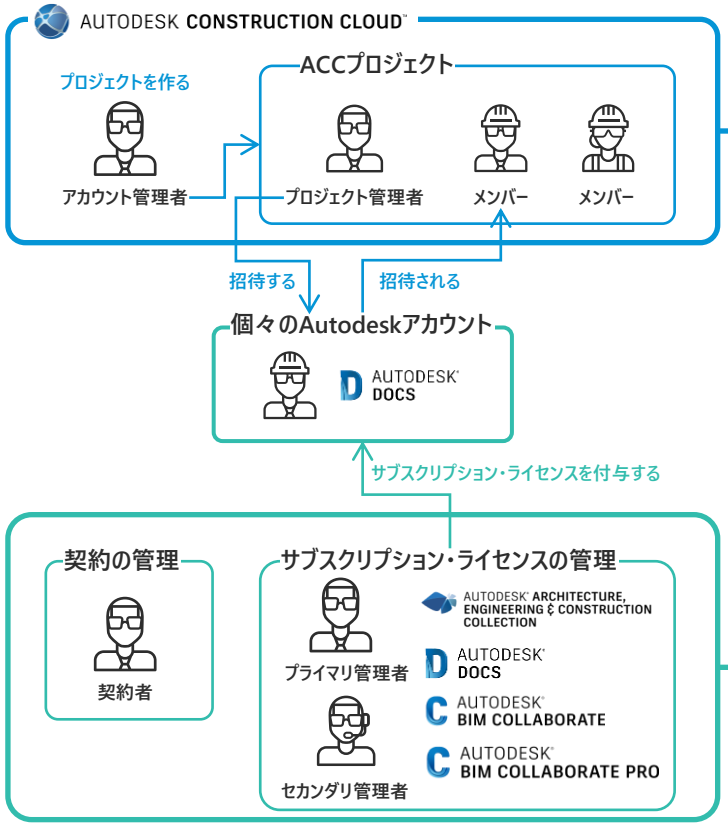
プロジェクトへの招待と、サブスクリプション・ライセンスの割り当ての両方を行う

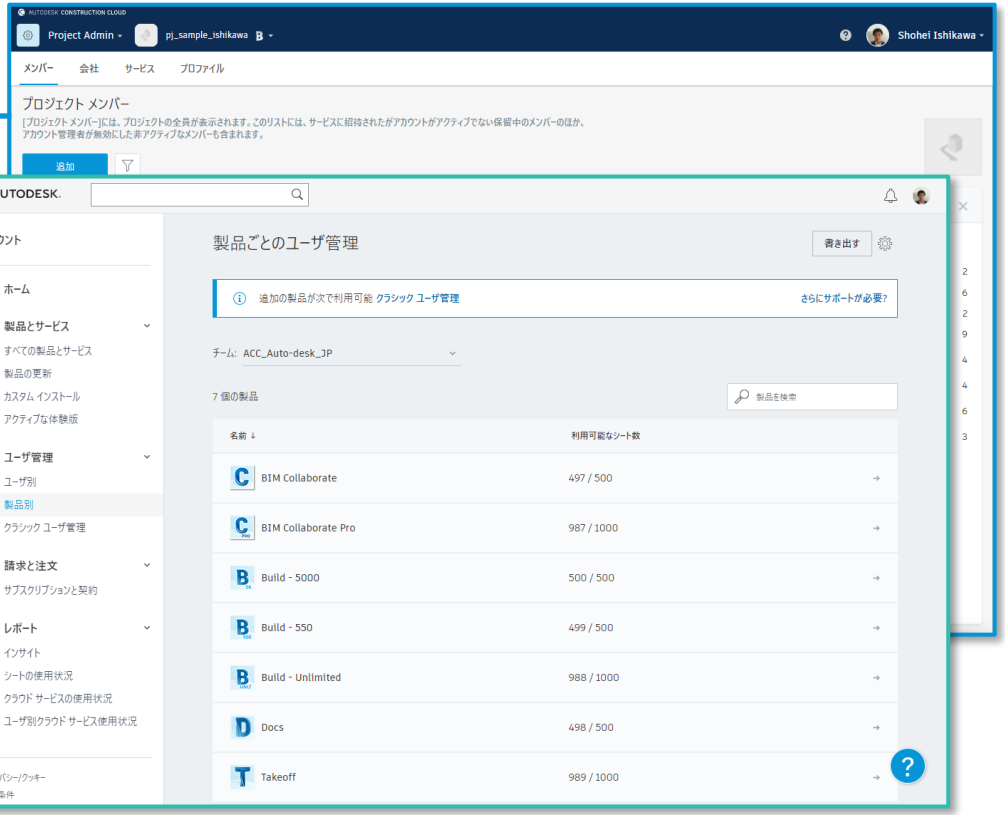




今後は、サブスクリプション・ライセンス管理も必要になります

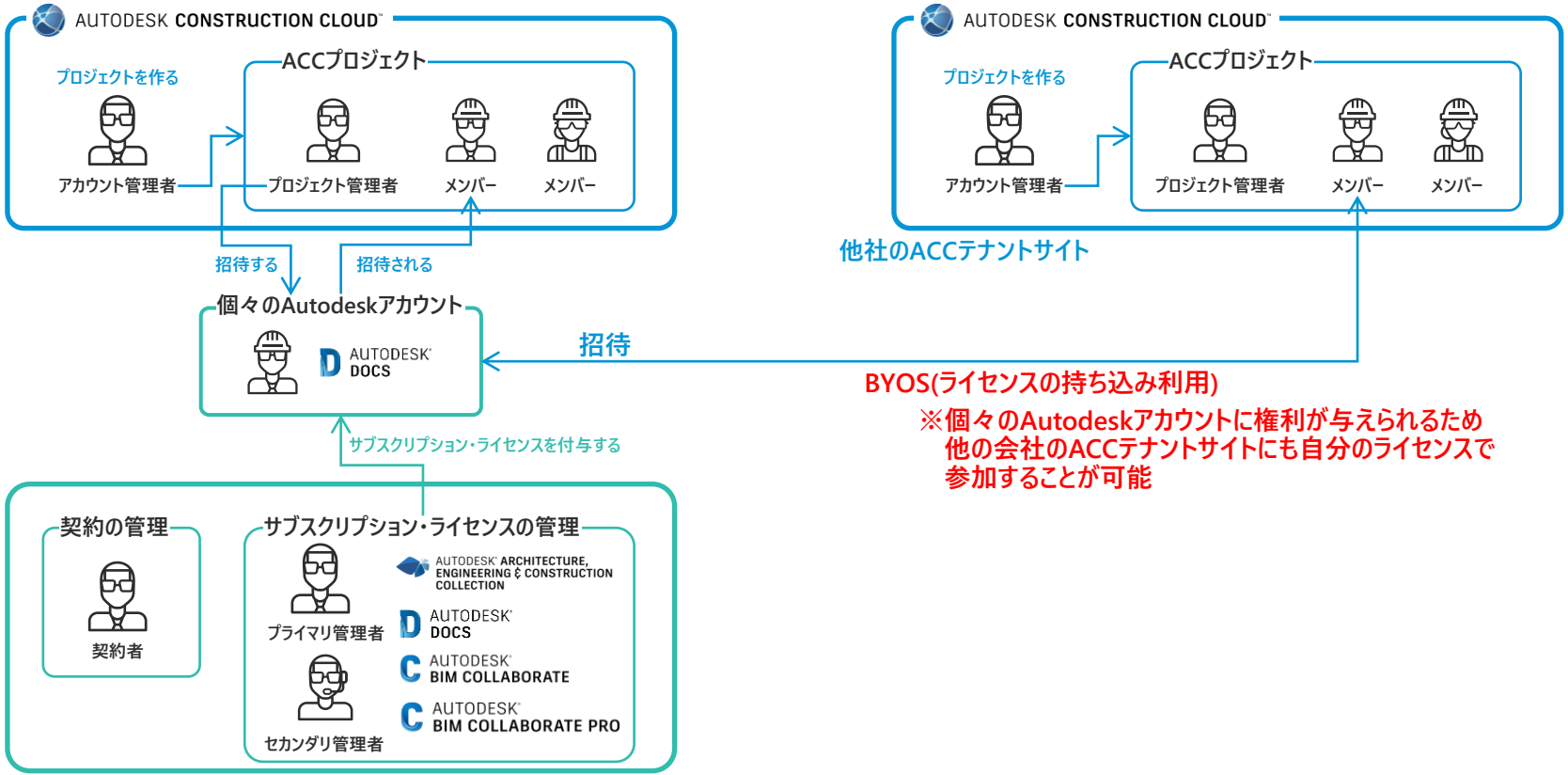
プロジェクトへの招待と、サブスクリプション・ライセンスの割り当ての両方を行う





今後は、サブスクリプション・ライセンス管理も必要になります

サブスクリプション・ライセンスの付与により、全てのライセンスがBYOSの運用になります



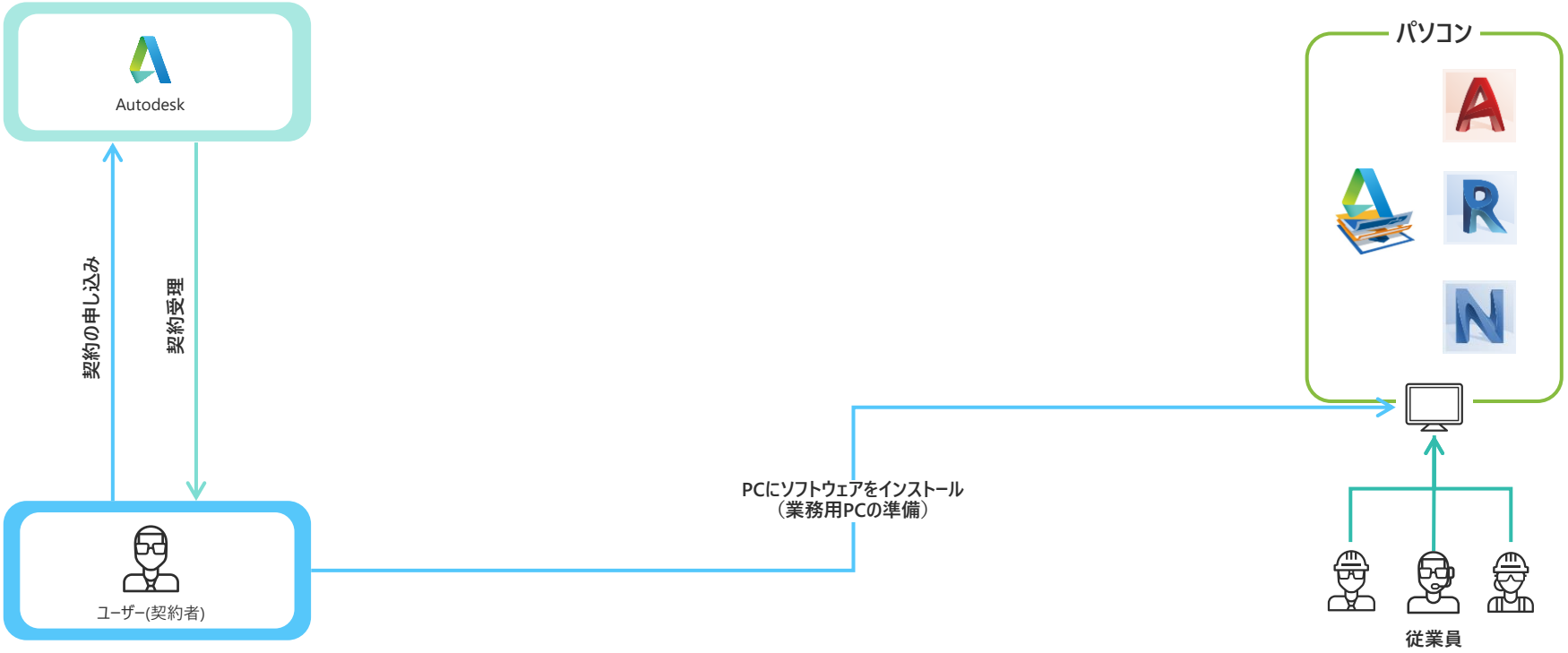
Autodesk Docsに関してご質問がある場合は、弊社営業担当、または以下のメールアドレスまでお問い合わせください。

Japan.BIM360.Contact@autodesk.com

RevitやNavisworksとACC/BIM360の連携
システムの全体像のイメージ

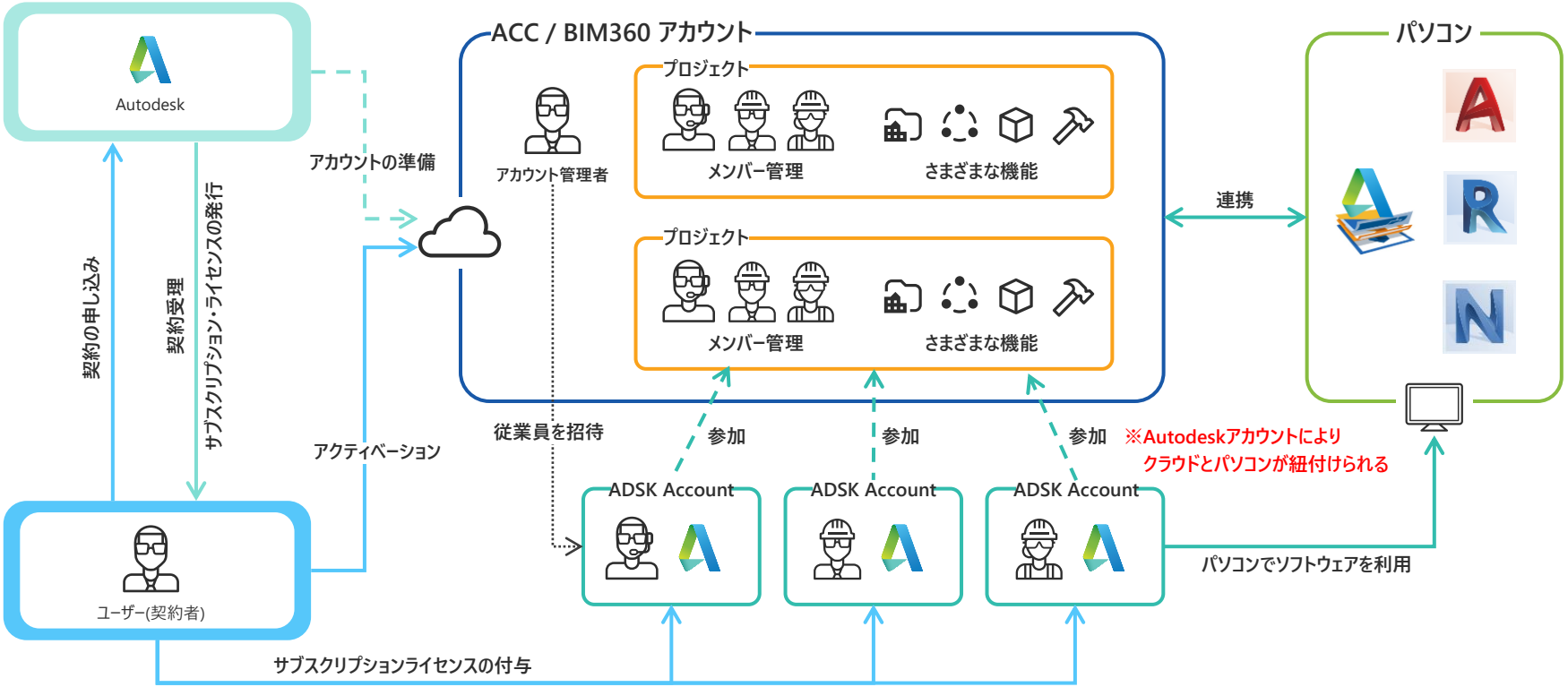
ソフトウェアとACC/BIM360を連携して利用する

ソフトウェアだけではなく、クラウドと連携して利用する



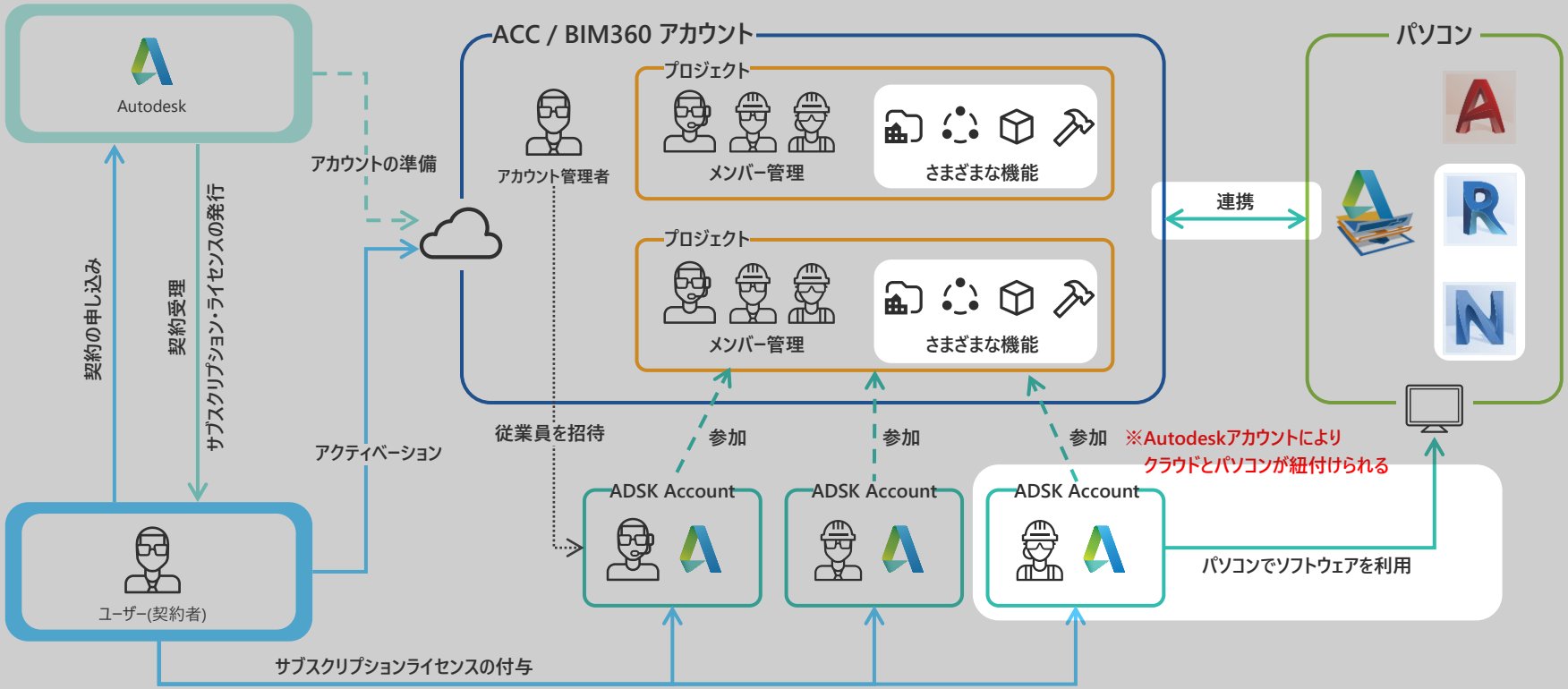
ソフトウェアとACC/BIM360を連携して利用する

連携して利用するために、プラットフォームとAutodeskアカウントとソフトウェアの関係をイメージしておく



ソフトウェアとACC/BIM360を連携して利用する

連携して利用するために、プラットフォームとAutodeskアカウントとソフトウェアの関係をイメージしておく



RevitとACC/BIM360で可能なこと

インターネット経由でデータファイルを操作しているイメージを持つことが大切

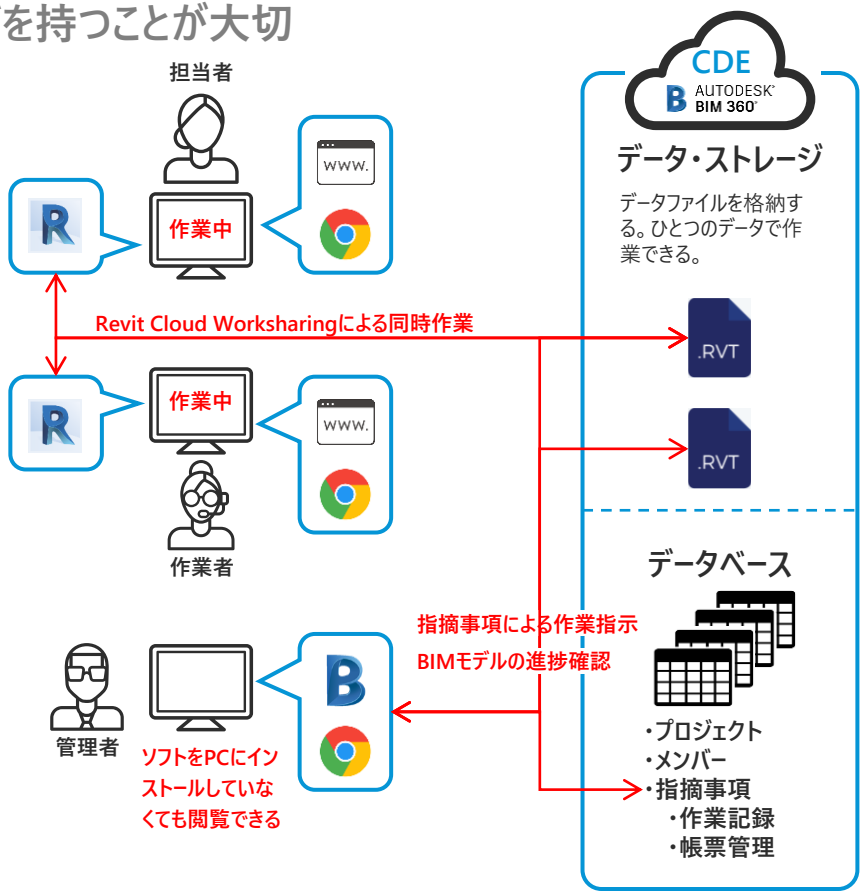
- 「クラウドモデル保存」(Docs)
  - BIM360のプロジェクトに対して、Revitから直接データファイルを保存したり開いたりできる

    ※RevitがBIM360から直接開けるのは、「クラウドモデル保存」したrvtファイルのみ最初にRevitからBIM360に保存してください。

- 「指摘事項」(Docs)
  - BIMモデルに指摘事項を作成できる
  - Revit内で指摘事項を確認できる(Issues Addon)

- 「rvtファイルの同時作業」(Revit Cloud Worksharing)
  - 同じrvtファイルに対して、クラウド経由で同時編集作業ができる

- 「BIMモデルの進捗管理」(Design Collaboration)
  - rvtファイルがアップロードされた日時をタイムラインで確認



NavisworksとACC/BIM360で可能なこと

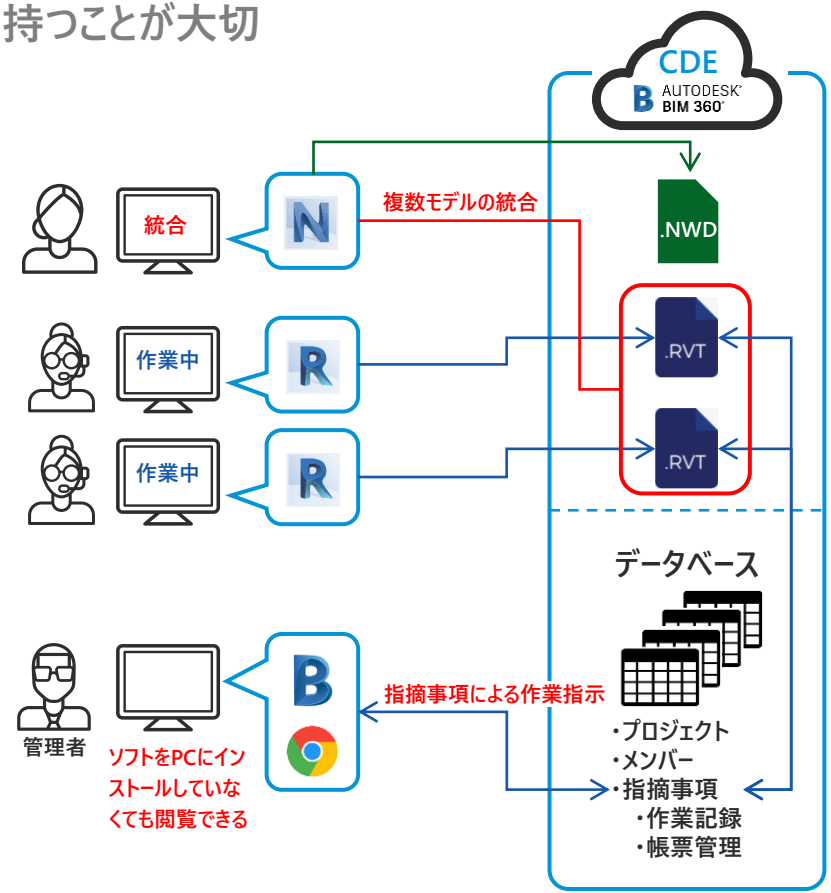
インターネット経由でデータファイルを操作しているイメージを持つことが大切

- **nwdファイルなどのデータファイルの保存と閲覧(Docs)**
  - nwdファイルなどBIM360に保存し、ソフトウェアが無くてもブラウザにてモデルを閲覧できます。

    ※Navisworksから直接保存するには「Desktop Connector」をご利用ください。

- **統合モデルの同時ダウンロード(Model Coordination)**
  - ACC/BM360上に保存されているBIMモデルを同時にNavisworksにダウンロードできる
  - 指摘事項もNavisworksで閲覧可能

モデル製作とモデル統合を分離して管理できる



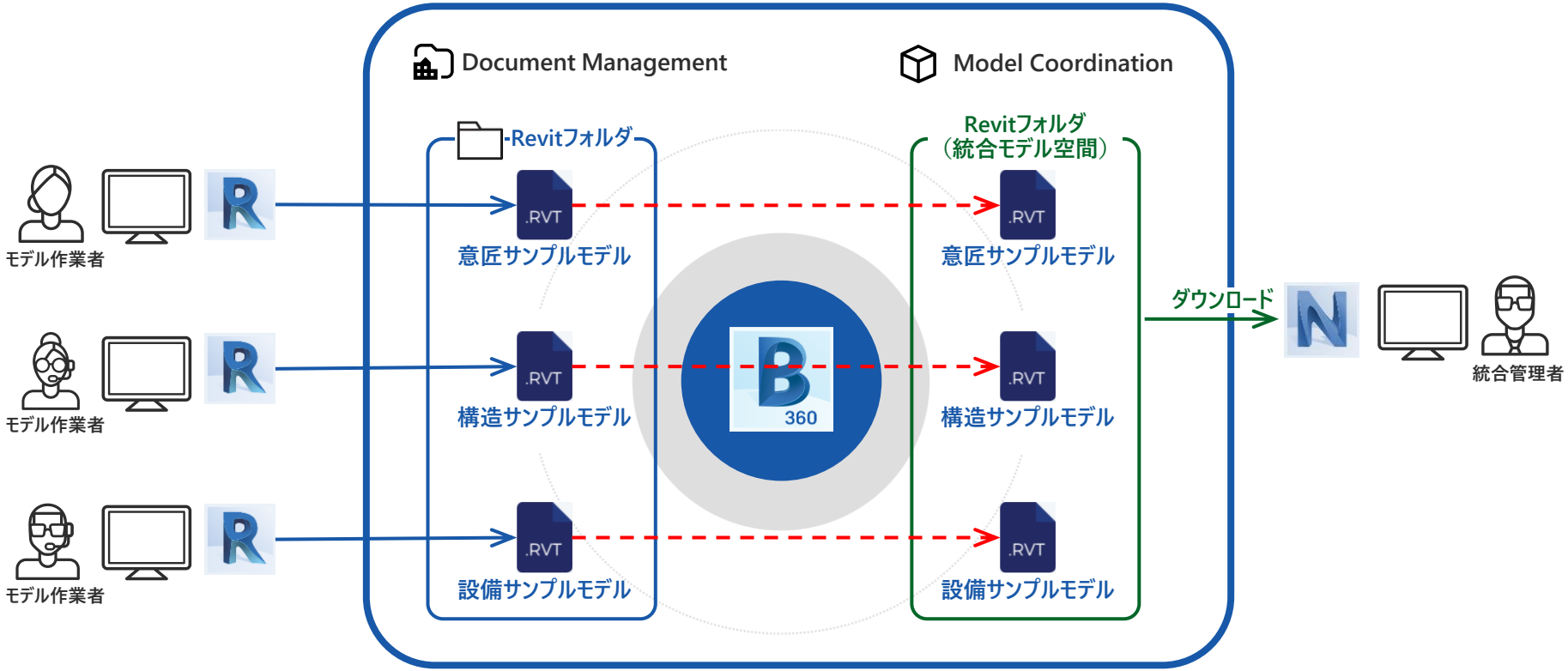
RevitやNavisworksとACC/BIM360の連携

連携前の確認と準備

- CDEとして利用するために必要なACC/BIM360の準備
- Autodesk製品を利用するために必要なライセンスの確認

本日の想定ワークフロー

RevitからACC/BIM360に保存した複数のBIMモデルを、Navisworksに取り込む



サービスを利用できるサブスクリプションの確認

利用するサービスの組み合わせから、割り当てるサブスクリプション・ライセンスを決める

	モデル作業者	統合管理者
• 利用するACC/BIM360モジュール	Docs/Document Management	Docs/Document Management Model Coordination
• 利用するソフトウェア	Revit	Navisworks
• 必要な割り当てサブスクリプション		

ACC製品パッケージと機能モジュール(7/7以降)

契約対象の製品と利用できる機能モジュール(サービス)の組合せ

※プラットフォームの機能

※各ソフトウェアへの追加機能

AUTODESK ARCHITECTURE, ENGINEERING & CONSTRUCTION COLLECTION

ACC機能モジュール

- Docs
  - 共通データ管理基盤(CDE)
    - データファイルの管理や閲覧
    - 指摘事項機能によるtodo管理

(管理用モジュール)

- Account Admin
- Project Admin
- Insight

- AutoCAD
- Revit
- Navisworks

AUTODESK DOCS

ACC機能モジュール

- Docs
  - 共通データ管理基盤(CDE)
    - データファイルの管理や閲覧
    - 指摘事項機能によるtodo管理

(管理用モジュール)

- Account Admin
- Project Admin
- Insight

AUTODESK BIM COLLABORATE

ACC機能モジュール

- Docs
- Design Collaboration
  - 複数BIMモデルの進捗管理
- Model Coordination
  - モデルの統合と干渉チェック

現場測定機器との連携

- BIM360 Layout
  - BIMモデルと測量機器の連携

※Android

(管理用モジュール)

- Account Admin
- Project Admin
- Insight

AUTODESK BIM COLLABORATE PRO

ソフトウェアの追加機能

- Revit Cloud Worksharing
- Collaborate for Civil 3D
- Collaborate for Plant 3D

AUTODESK TAKEOFF

ACC機能モジュール

- Docs
- Takeoff
  - 2Dと3Dの積算

(管理用モジュール)

- Account Admin
- Project Admin
- Insight

AUTODESK BUILD

ACC機能モジュール

- Docs
- Build
  - 設計と施工の情報管理
- Cost
  - 予算管理

Buildは発行シート枚数制限によって3種類

- Build-550
- Build-5000
- Build-Unlimited

(管理用モジュール)

- Account Admin
- Project Admin
- Insight

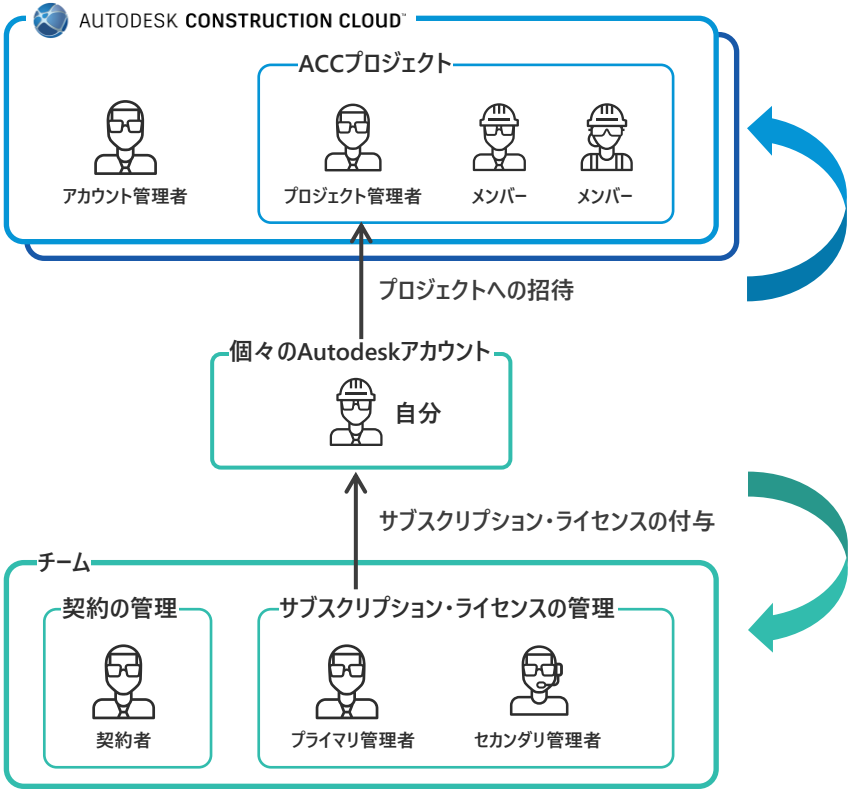
サービスを利用できるサブスクリプションの確認

利用するサービスの組み合わせから、割り当てるサブスクリプション・ライセンスを決める

	モデル作業者	統合管理者
• 利用するACC/BIM360モジュール	Document Management	Document Management Model Coordination
• 利用するソフトウェア	Revit	Navisworks
• 必要な割り当てサブスクリプション	AUTODESK® ARCHITECTURE, ENGINEERING & CONSTRUCTION COLLECTION または Revit単体 & AUTODESK® DOCS	AUTODESK® ARCHITECTURE, ENGINEERING & CONSTRUCTION COLLECTION & AUTODESK® BIM COLLABORATE(PRO) または Navisworks単体 & AUTODESK® BIM COLLABORATE(PRO)

自分が各種サービスを利用できるか自分で確認する

確認ページはブックマークをしておくと便利

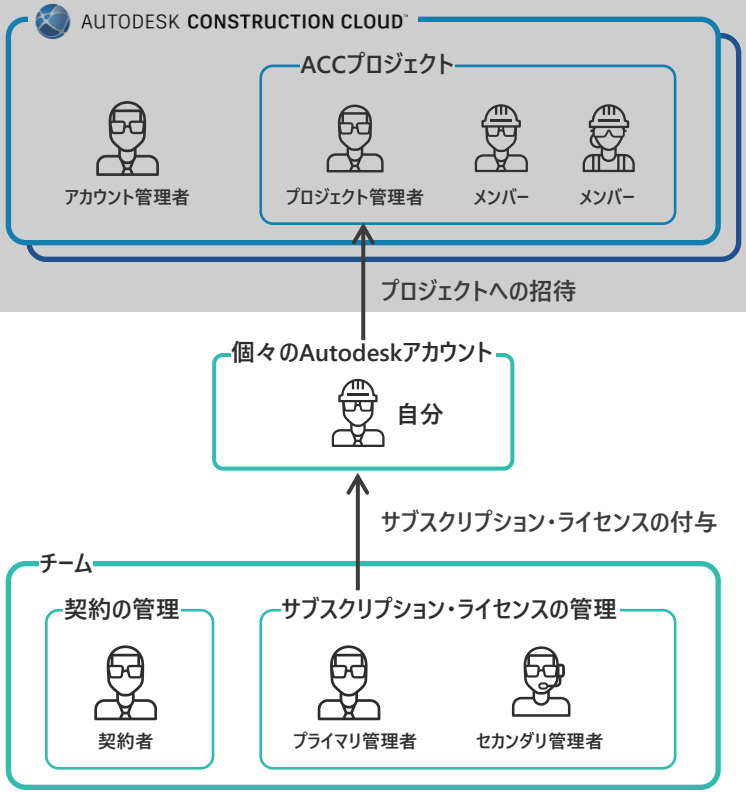


- **ACC/BIM360の設定の確認**
  - プロジェクトに招待されているか？
  - 利用したいモジュールが割り当てられているか？
  - フォルダの権限は割り当てられているか？

- **ライセンスの確認**
  - 利用したいサービスが利用できるサブスクリプション・ライセンスが割り当てられているか？
    - Revit→RevitまたはAECC
    - Revit Cloud Worksharing→BIM Collaborate Proなど…

自分が各種サービスを利用できるか自分で確認する

確認ページはブックマークをしておくと便利

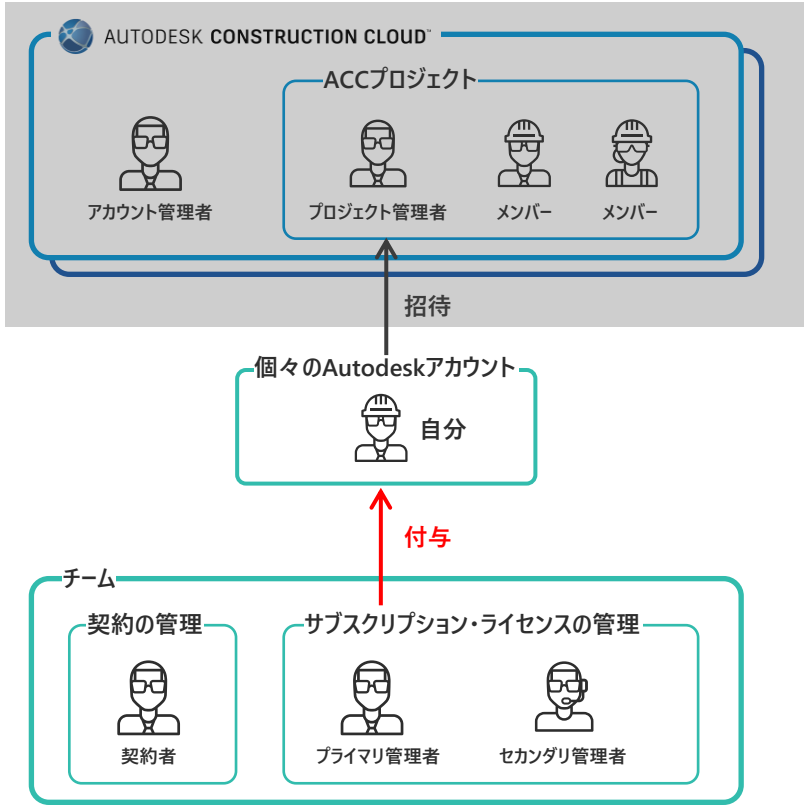


- **ACC/BIM360の設定の確認**
  - プロジェクトに招待されているか？
  - 利用したいモジュールが割り当てられているか？
  - フォルダの権限は割り当てられているか？

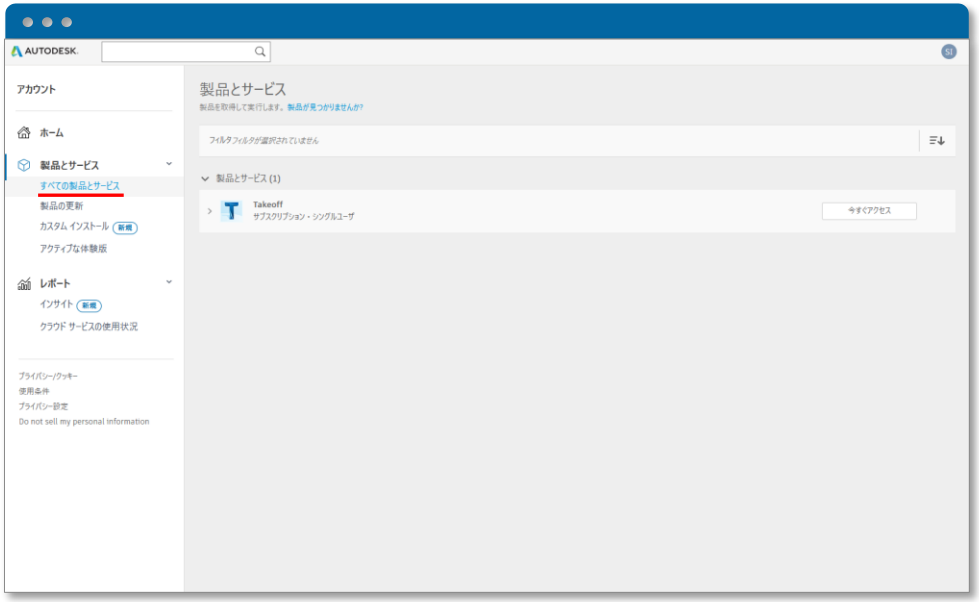
- **ライセンスの確認**
  - 利用したいサービスが利用できるサブスクリプション・ライセンスが割り当てられているか？
    - Revit→RevitまたはAECC
    - Revit Cloud Worksharing→BIM Collaborate Proなど…

自分のサブスクリプション・ライセンスの確認

役割とwebページの対応関係：



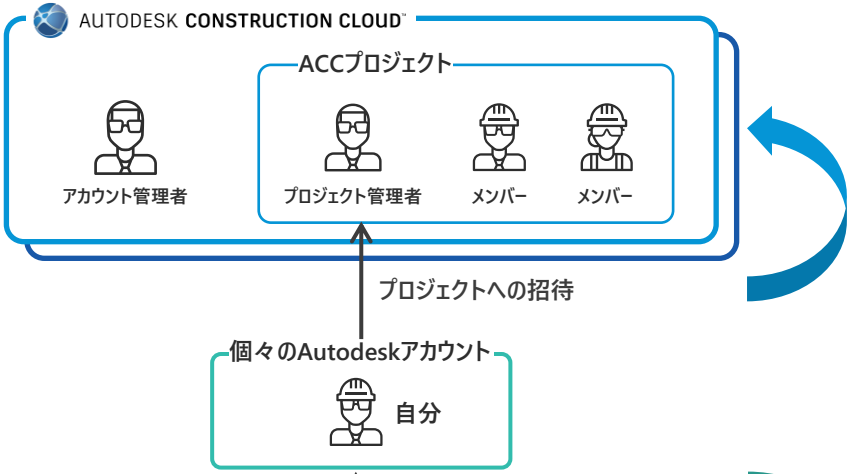
https://manage.autodesk.com/cep/#products-services/all



- Autodeskアカウントの管理画面内の「すべての製品とサービス」で、自分に割り当てられているサブスクリプション・ライセンスの確認が可能
- 利用したいサービスがあるか確認する。
- ない場合はサブスクリプション・ライセンス管理者に問い合わせする

自分が各種サービスを利用できるか自分で確認する

確認ページはブックマークをしておくと便利



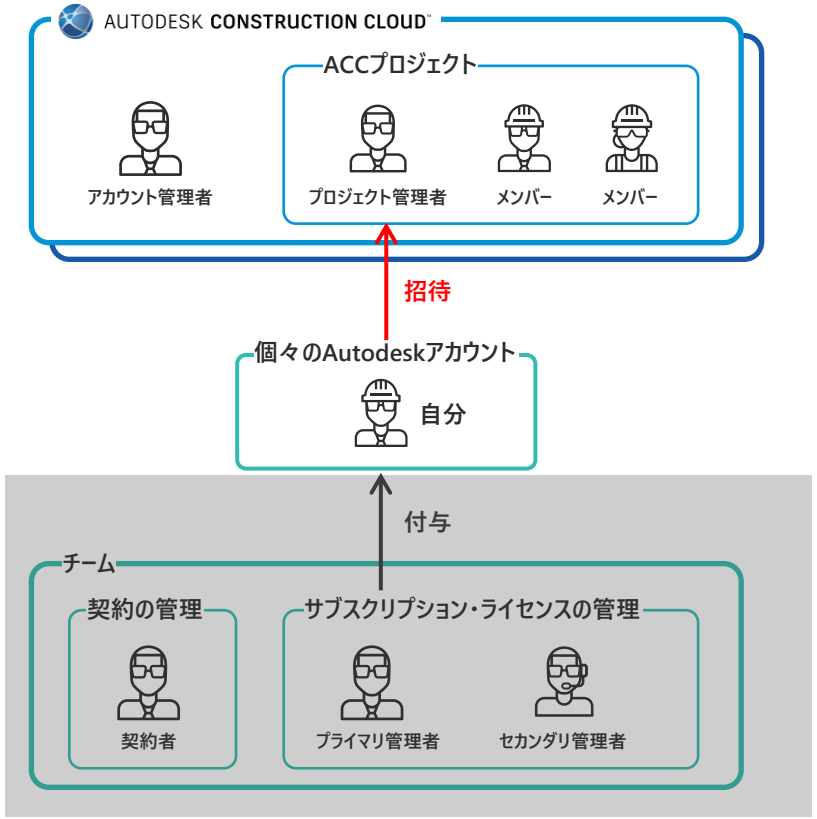
- **ACC/BIM360の設定の確認**
  - プロジェクトに招待されているか？
  - 利用したいモジュールが割り当てられているか？
  - フォルダの権限は割り当てられているか？

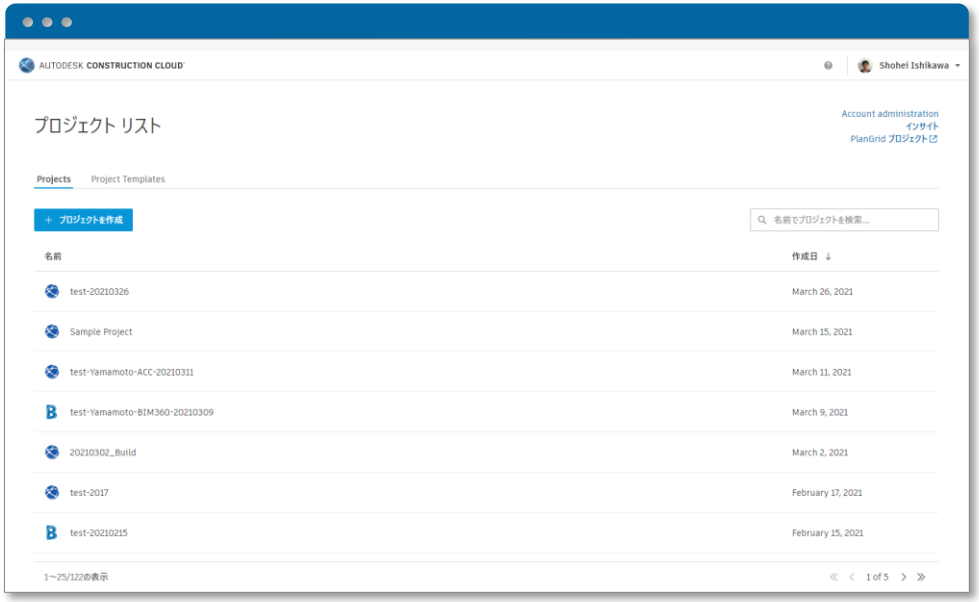
- **ライセンスの確認**
  - 利用したいサービスが利用できるサブスクリプション・ライセンスが割り当てられているか？
    - Revit→RevitまたはAECC
    - Revit Cloud Worksharing→BIM Collaborate Proなど…

自分が参加しているプロジェクトの一覧

サインインしているAutodeskアカウントが招待されているプロジェクト一覧

https://acc.autodesk.com/projects

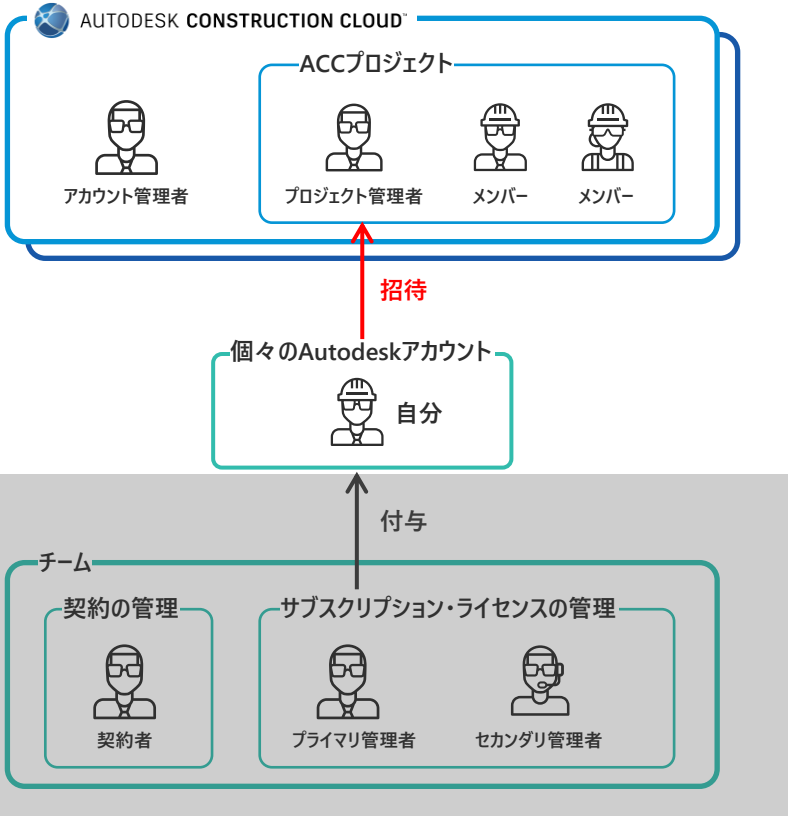


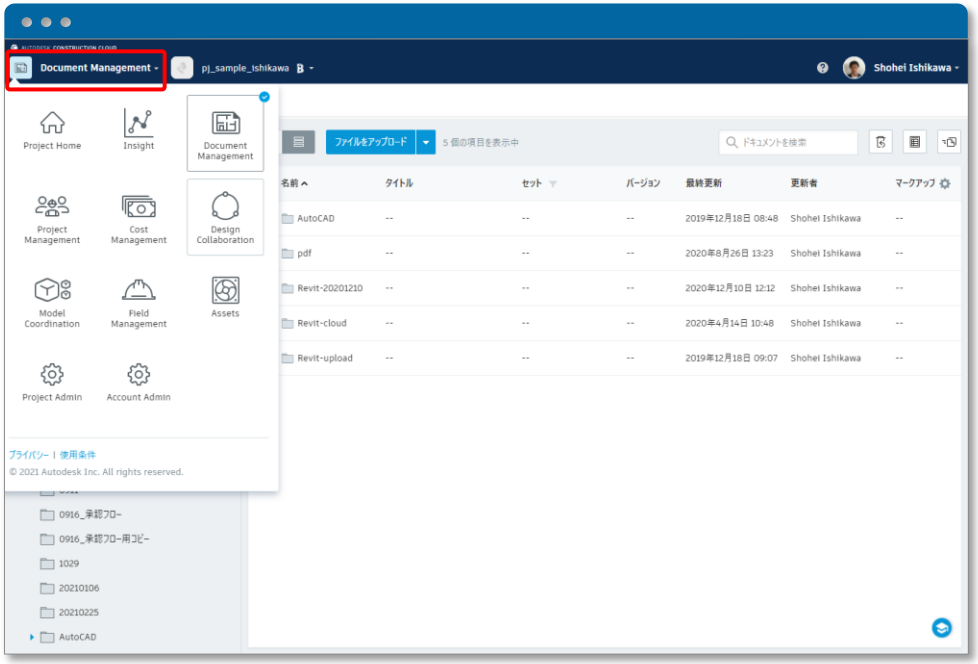


- サインインしているAutodeskアカウントが参加しているプロジェクトの一覧
- 従業員はブックマークしておく

プロジェクトで自分が利用可能なモジュールの一覧

各プロジェクトページの左上のモジュール一名をクリック

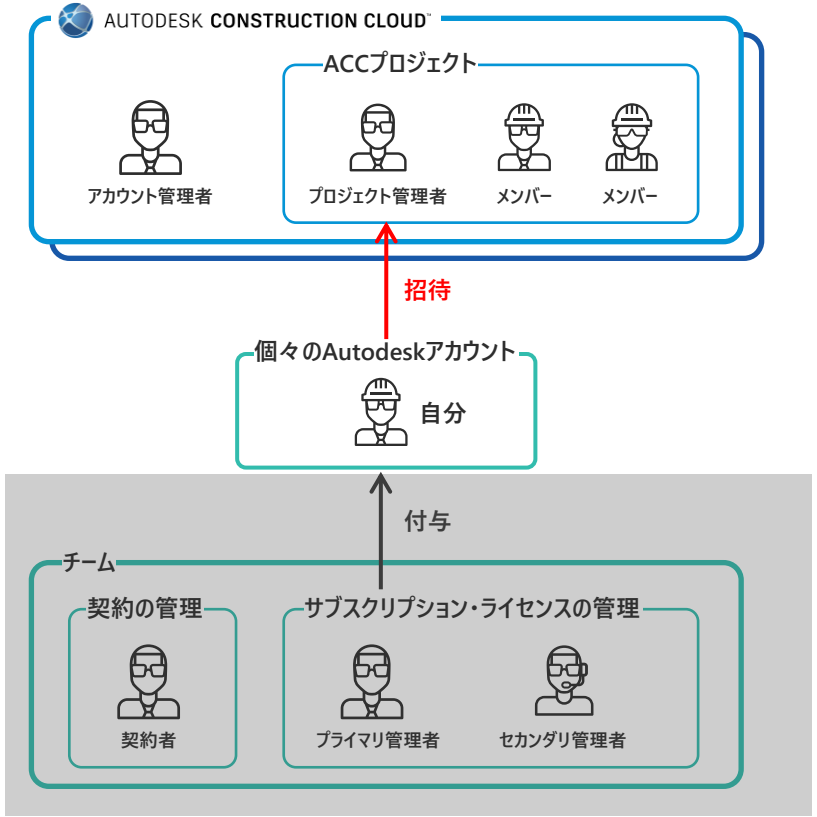


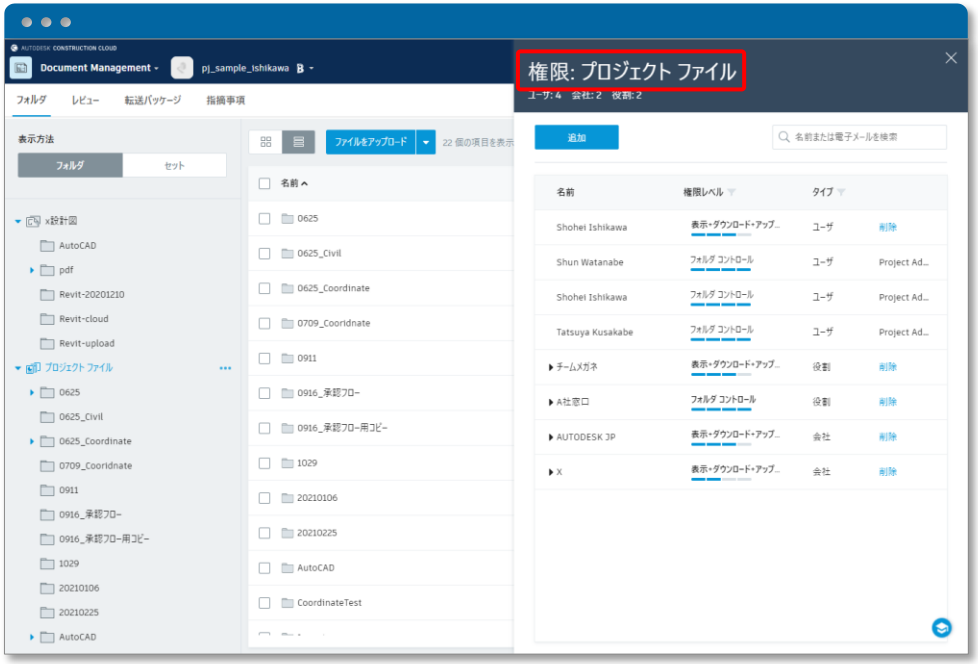


- そのプロジェクトにて自分に割り当てられているモジュール一覧が表示
- 表示されないモジュールは利用できない→プロジェクト管理者に問い合わせ

プロジェクトで自分が閲覧できるフォルダの確認

各プロジェクトページの左上のモジュール一名をクリック





- クラウドモデル保存をするには「編集」以上の権限が必要
- フォルダが表示されない、クラウドモデル保存できない、など問題がある場合はプロジェクト管理者に問い合わせする

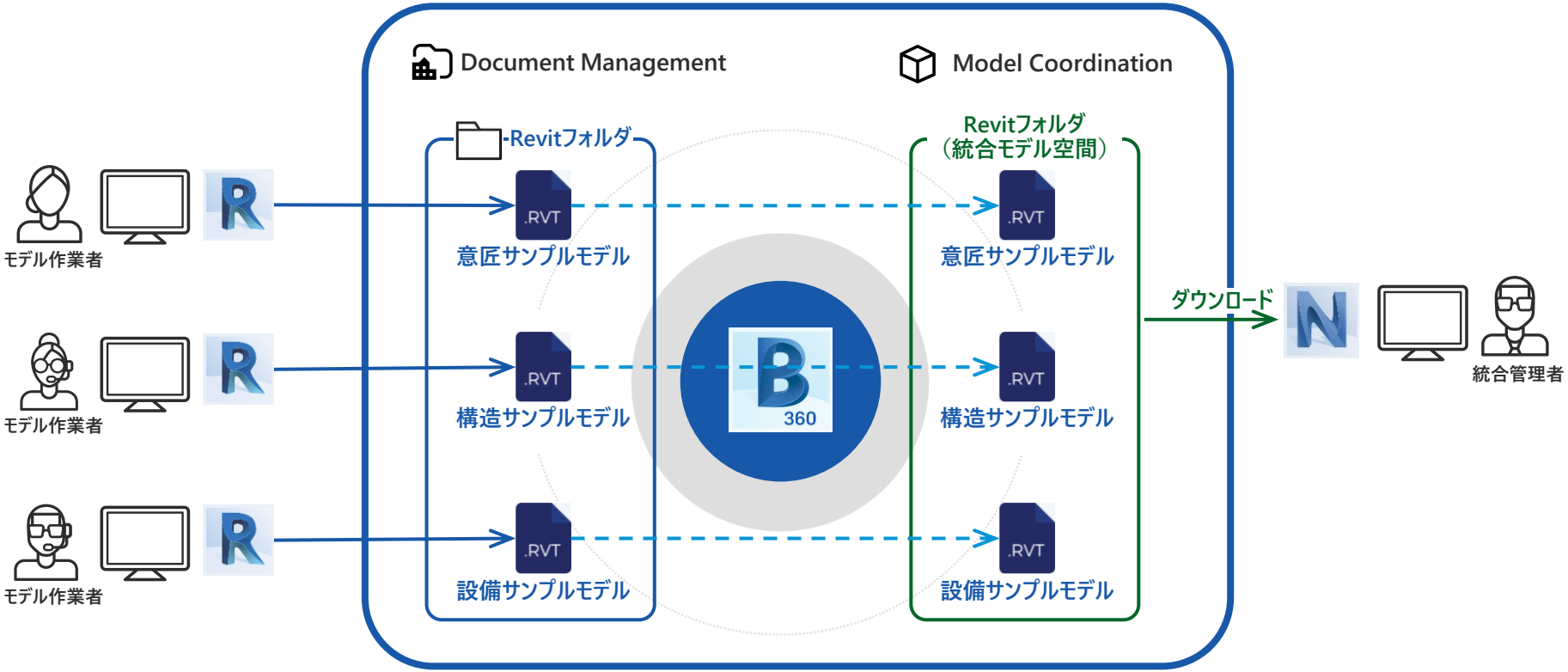
RevitやNavisworksとACC/BIM360の連携

Revit、Naviswoks、ACC/BIM360の準備

- Revit,Navisworksのバージョン確認
- BIM360のプロジェクトの準備

本日の想定ワークフロー

RevitからACC/BIM360に保存した複数のBIMモデルを、Navisworksに取り込む

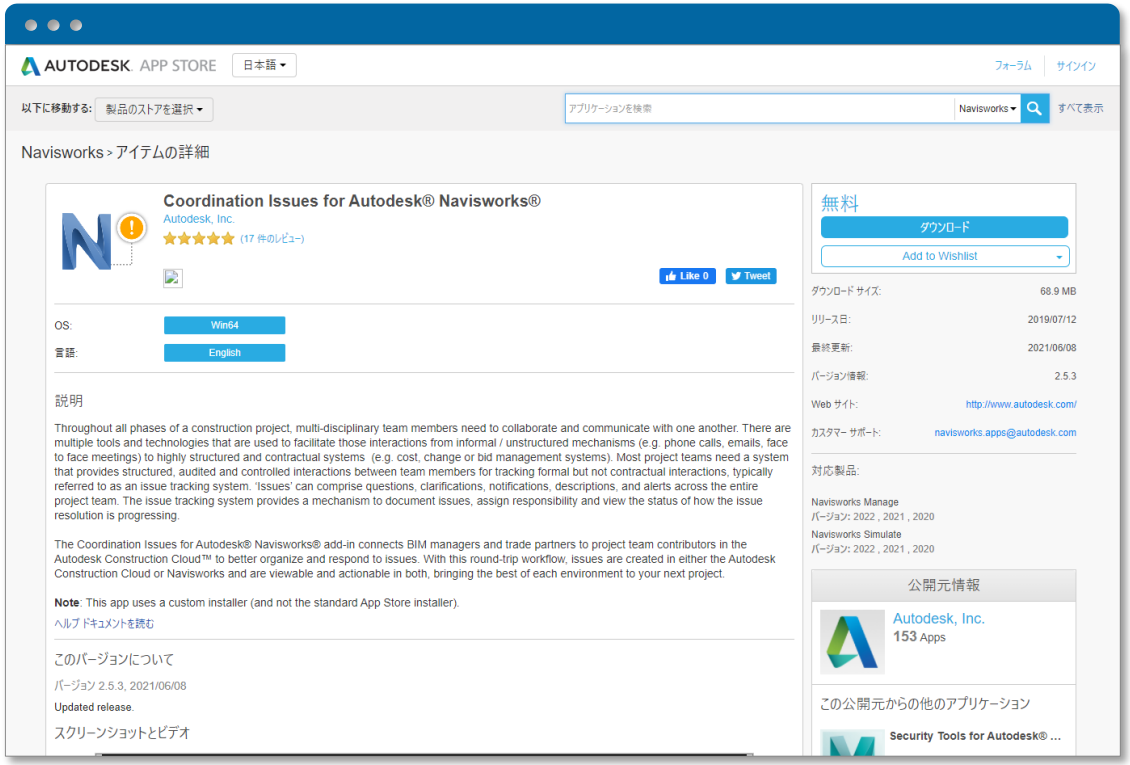


ソフトウェアのバージョン確認

新しいバージョンでは機能が統合され、アドオンが不要になることが多いです。

- **クラウドと連携に必要なバージョンの確認**
  - ソフトウェアの利用可能バージョン
    - 最新+5バージョン
    - 2022/2021/2020/2019/2018/2017
  - サポート対応可能なバージョン
    - 最新+3バージョン
    - 2022/2021/2020/2019
- **Revit Cloud Worksharing**
  - Revit 2019以降を推奨
- **NavisworksとBIM360の連携**
  - 2021以前ではアドオンのインストールが必要

今回のデモでは
Revit2021、Navisworks2021を利用します



https://apps.autodesk.com/NAVIS/ja/Detail/Index?id=5155805354033590972&appLang=en&os=Win64

ACC/BIM360のプロジェクトやモジュールの準備

プロジェクトリストからACCの管理画面に移動

https://acc.autodesk.com/projects

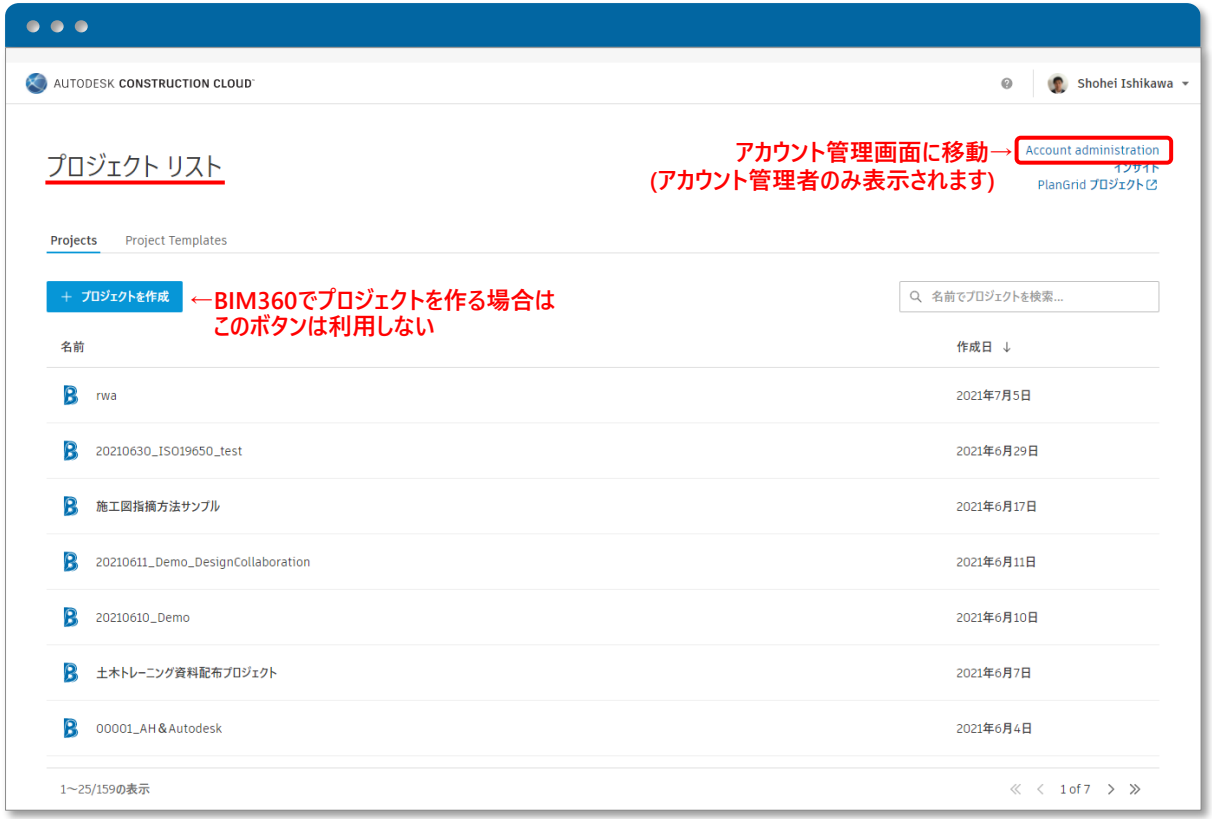
今回のデモではBIM360を利用します

アカウント管理者

- プロジェクトの作成

プロジェクト管理者

- モジュールのアクティベーション
  - Document Management
  - Model Coordination
- メンバーの追加とモジュールの割り当て
- Document Managementの設定
  - フォルダの作成と権限設定
- Model Coordinationの設定
  - 作成したフォルダを統合空間に指定



ACC/BIM360のプロジェクトやモジュールの準備

ACCのアカウント管理画面(Account Admin)からBIM360のアカウント管理画面に移動

今回のデモではBIM360を利用します

アカウント管理者

- **プロジェクトの作成**

プロジェクト管理者

- **モジュールのアクティベーション**
  - Document Management
  - Model Coordination
- **メンバーの追加とモジュールの割り当て**
- **Document Managementの設定**
  - フォルダの作成と権限設定
- **Model Coordinationの設定**
  - 作成したフォルダを統合空間に指定

ACC/BIM360のプロジェクトやモジュールの準備

BIM360のアカウント管理画面(Account Admin)にてプロジェクトを作成

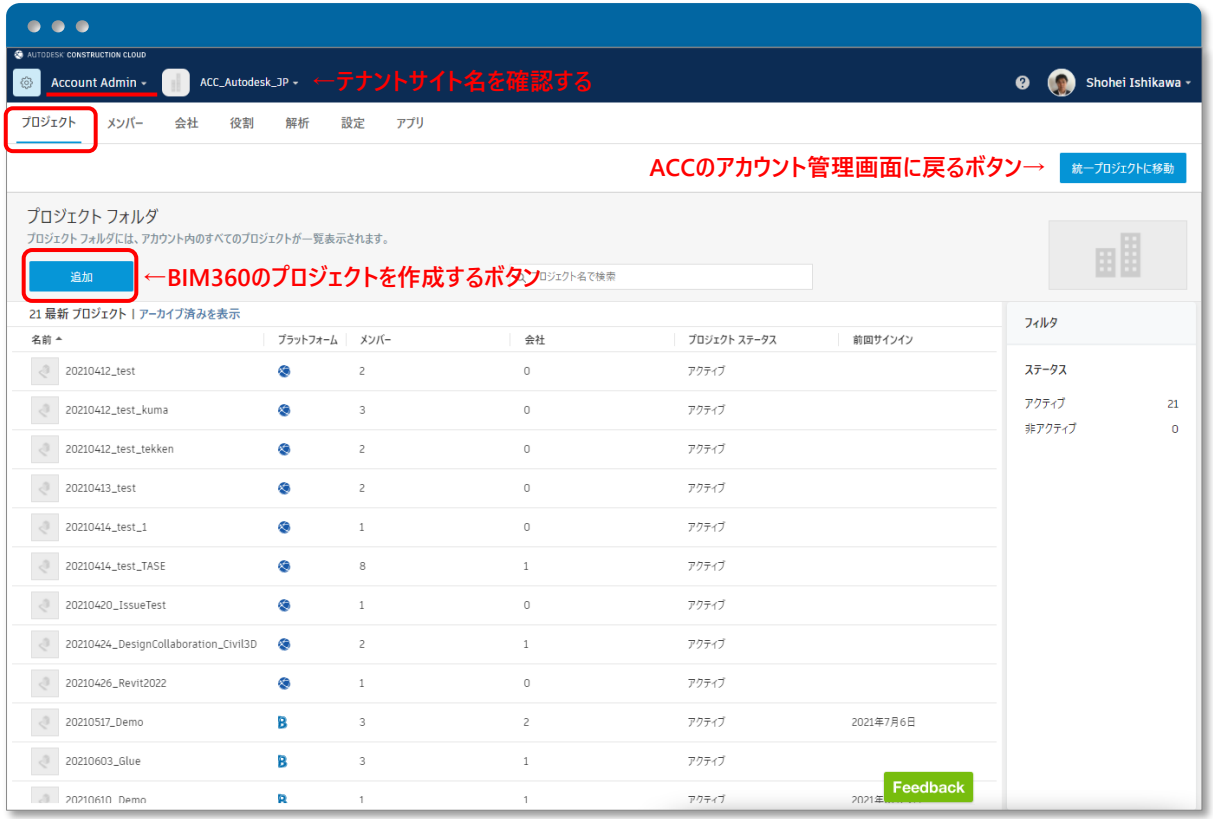
今回のデモではBIM360を利用します

アカウント管理者

- プロジェクトの作成

プロジェクト管理者

- モジュールのアクティベーション
  - Document Management
  - Model Coordination
- メンバーの追加とモジュールの割り当て
- Document Managementの設定
  - フォルダの作成と権限設定
- Model Coordinationの設定
  - 作成したフォルダを統合空間に指定



ACC/BIM360のプロジェクトやモジュールの準備

プロジェクト管理画面(Project Admin)

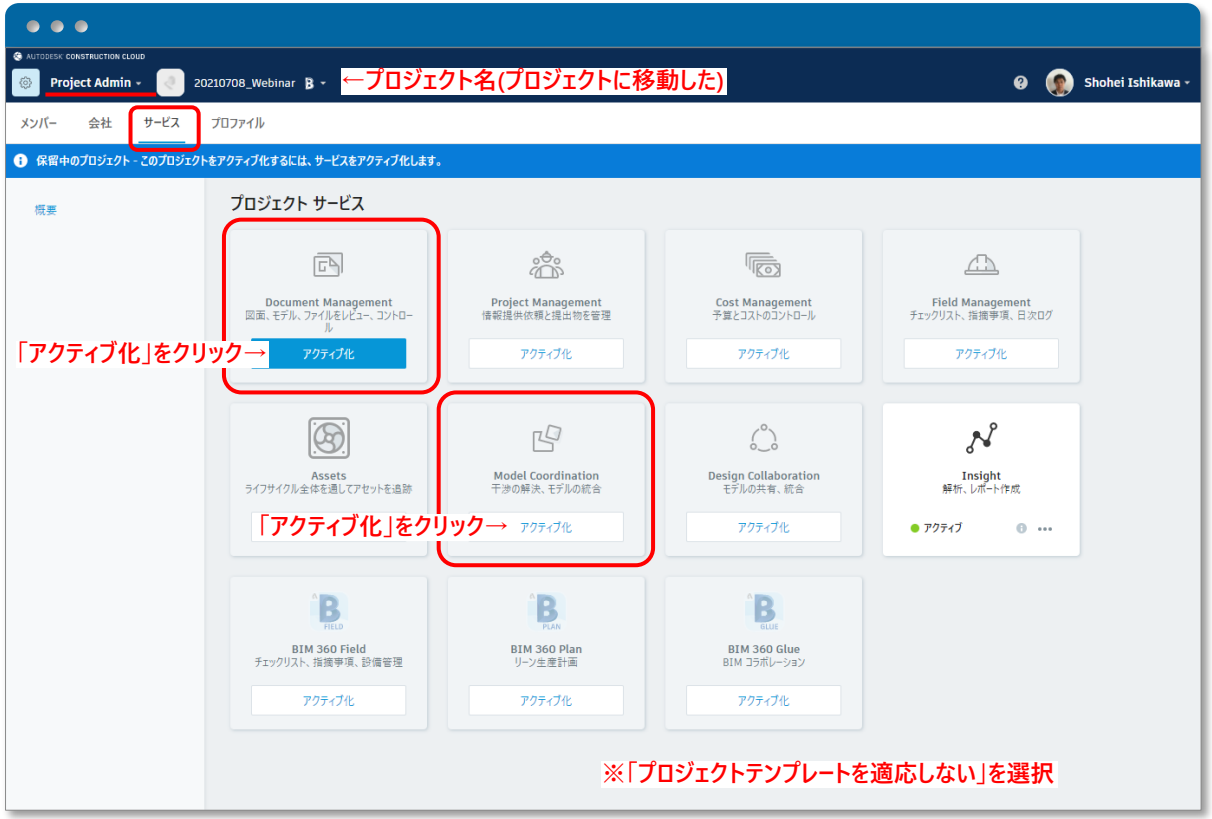
今回のデモではBIM360を利用します

アカウント管理者

- プロジェクトの作成

プロジェクト管理者

- モジュールのアクティベーション
  - Document Management
  - Model Coordination
- メンバーの追加とモジュールの割り当て
- Document Managementの設定
  - フォルダの作成と権限設定
- Model Coordinationの設定
  - 作成したフォルダを統合空間に指定



ACC/BIM360のプロジェクトやモジュールの準備

プロジェクト管理画面(Project Admin)

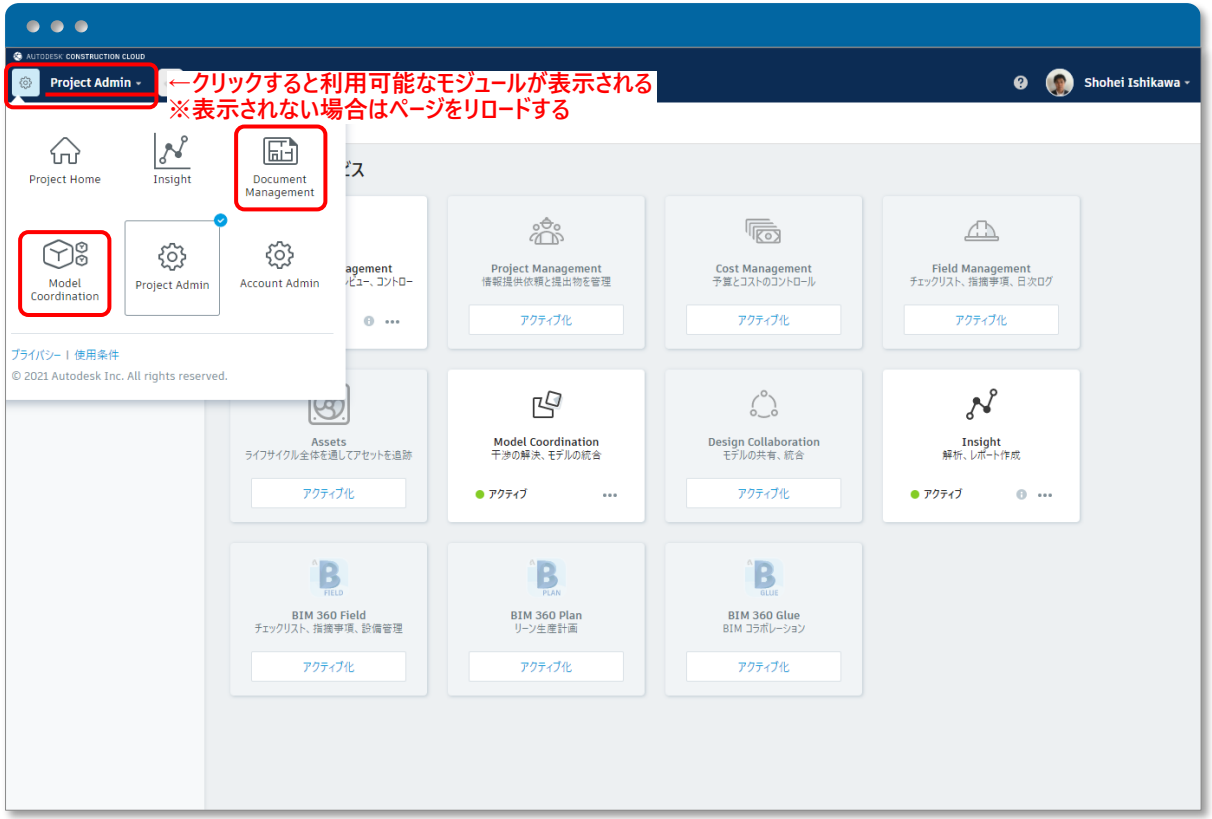
今回のデモではBIM360を利用します

アカウント管理者

- プロジェクトの作成

プロジェクト管理者

- モジュールのアクティベーション
  - Document Management
  - Model Coordination
- メンバーの追加とモジュールの割り当て
- Document Managementの設定
  - フォルダの作成と権限設定
- Model Coordinationの設定
  - 作成したフォルダを統合空間に指定



ACC/BIM360のプロジェクトやモジュールの準備

プロジェクト管理画面(Project Admin)

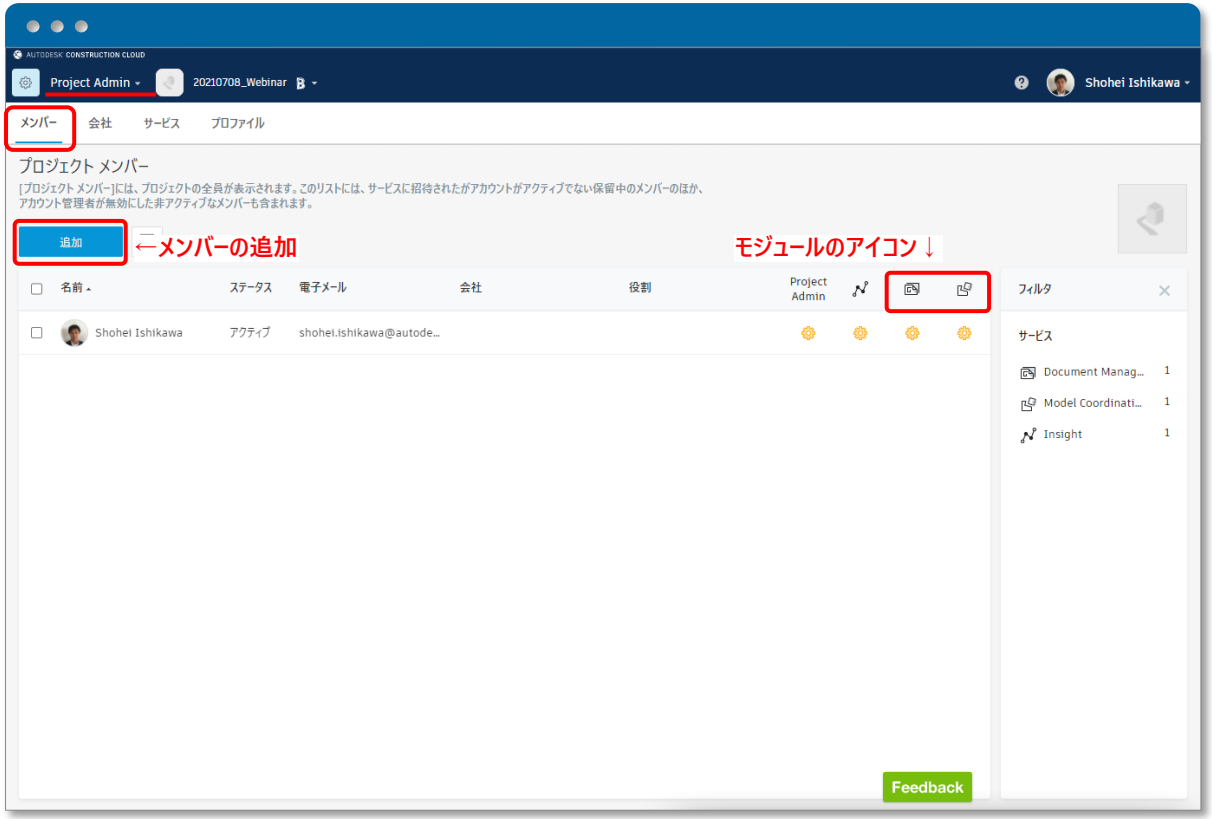
今回のデモではBIM360を利用します

アカウント管理者

- **プロジェクトの作成**

プロジェクト管理者

- **モジュールのアクティベーション**
  - Document Management
  - Model Coordination
- **メンバーの追加とモジュールの割り当て**
- **Document Managementの設定**
  - フォルダの作成と権限設定
- **Model Coordinationの設定**
  - 作成したフォルダを統合空間に指定



ACC/BIM360のプロジェクトやモジュールの準備

Document Managementat

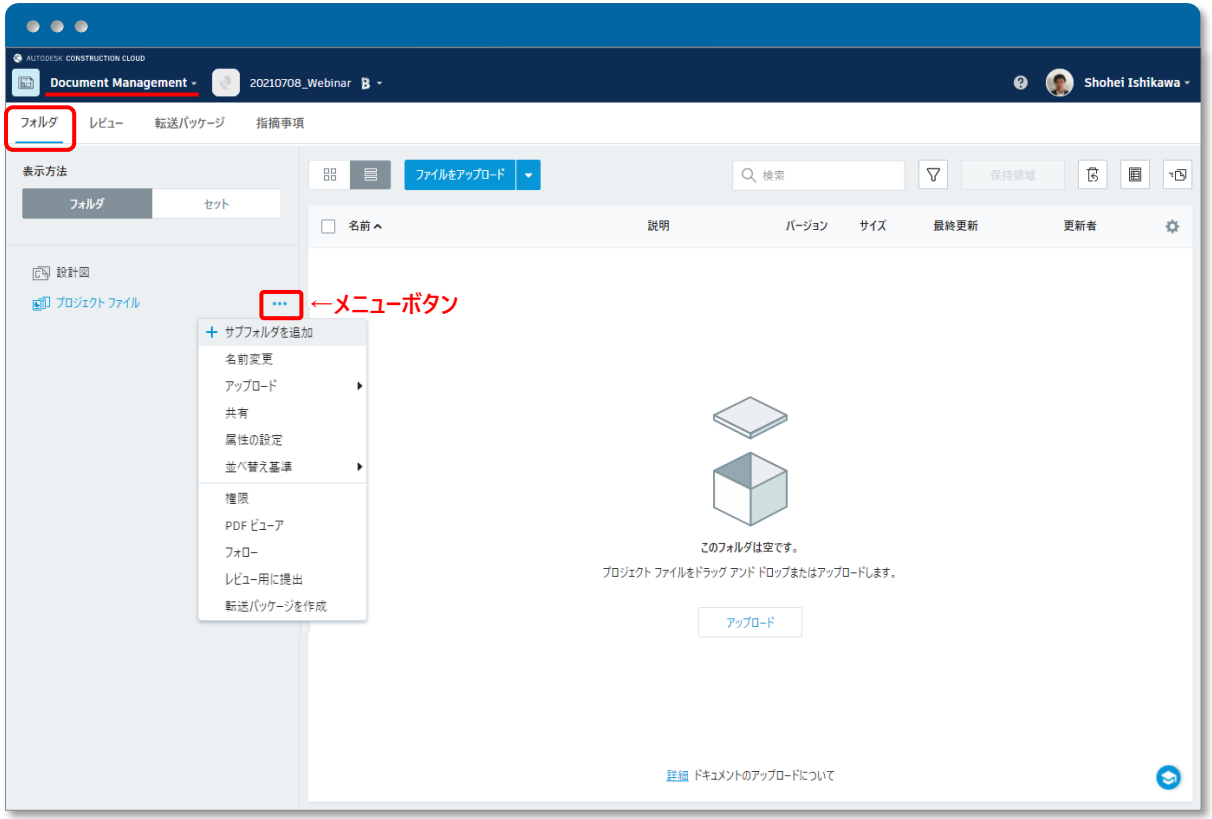
今回のデモではBIM360を利用します

アカウント管理者

- **プロジェクトの作成**

プロジェクト管理者

- **モジュールのアクティベーション**
  - Document Management
  - Model Coordination
- **メンバーの追加とモジュールの割り当て**
- **Document Managementの設定**
  - フォルダの作成と権限設定
- **Model Coordinationの設定**
  - 作成したフォルダを統合空間に指定



ACC/BIM360のプロジェクトやモジュールの準備

Document Managementat

今回のデモではBIM360を利用します

アカウント管理者

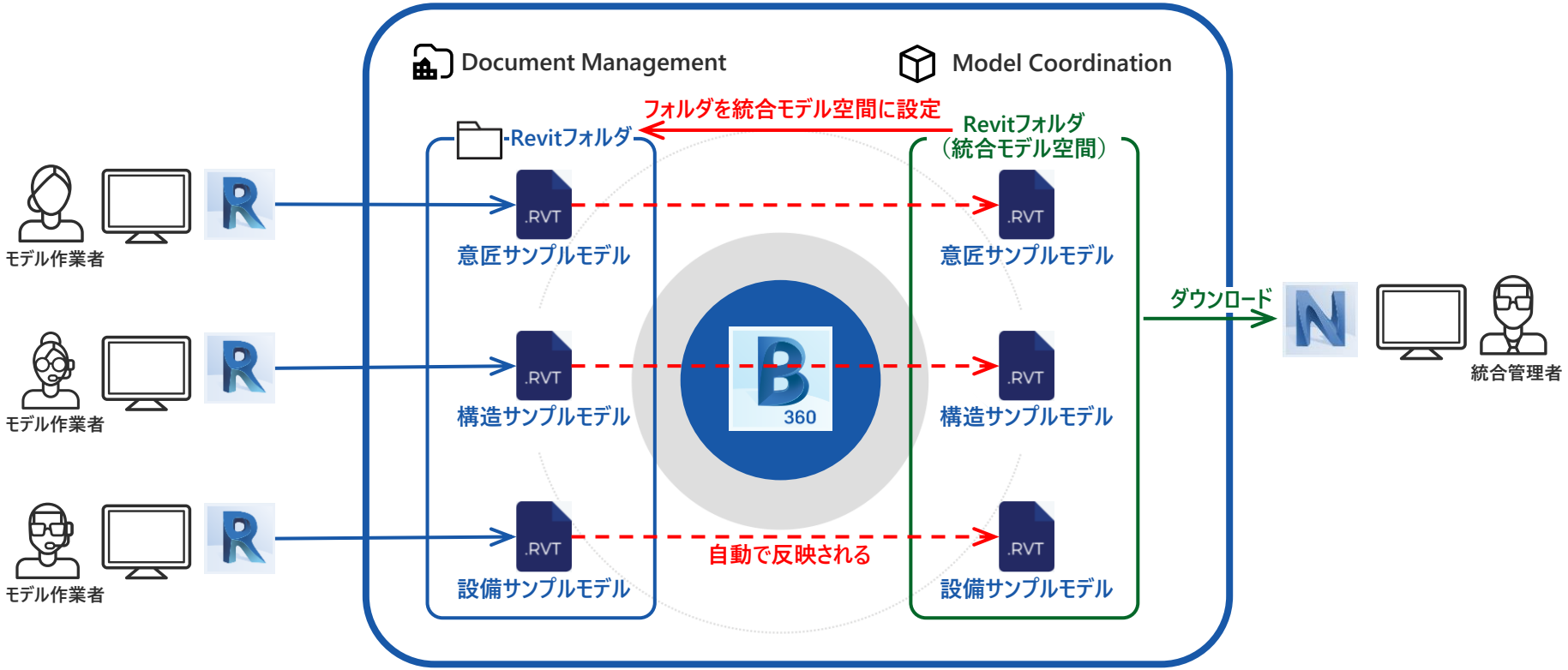
- **プロジェクトの作成**

プロジェクト管理者

- **モジュールのアクティベーション**
  - Document Management
  - Model Coordination
- **メンバーの追加とモジュールの割り当て**
- **Document Managementの設定**
  - フォルダの作成と権限設定
- **Model Coordinationの設定**
  - 作成したフォルダを統合空間に指定

本日の想定ワークフロー

RevitからACC/BIM360に保存した複数のBIMモデルを、Navisworksに取り込む



ACC/BIM360のプロジェクトやモジュールの準備

Project AdminにてModel Coordinationの設定

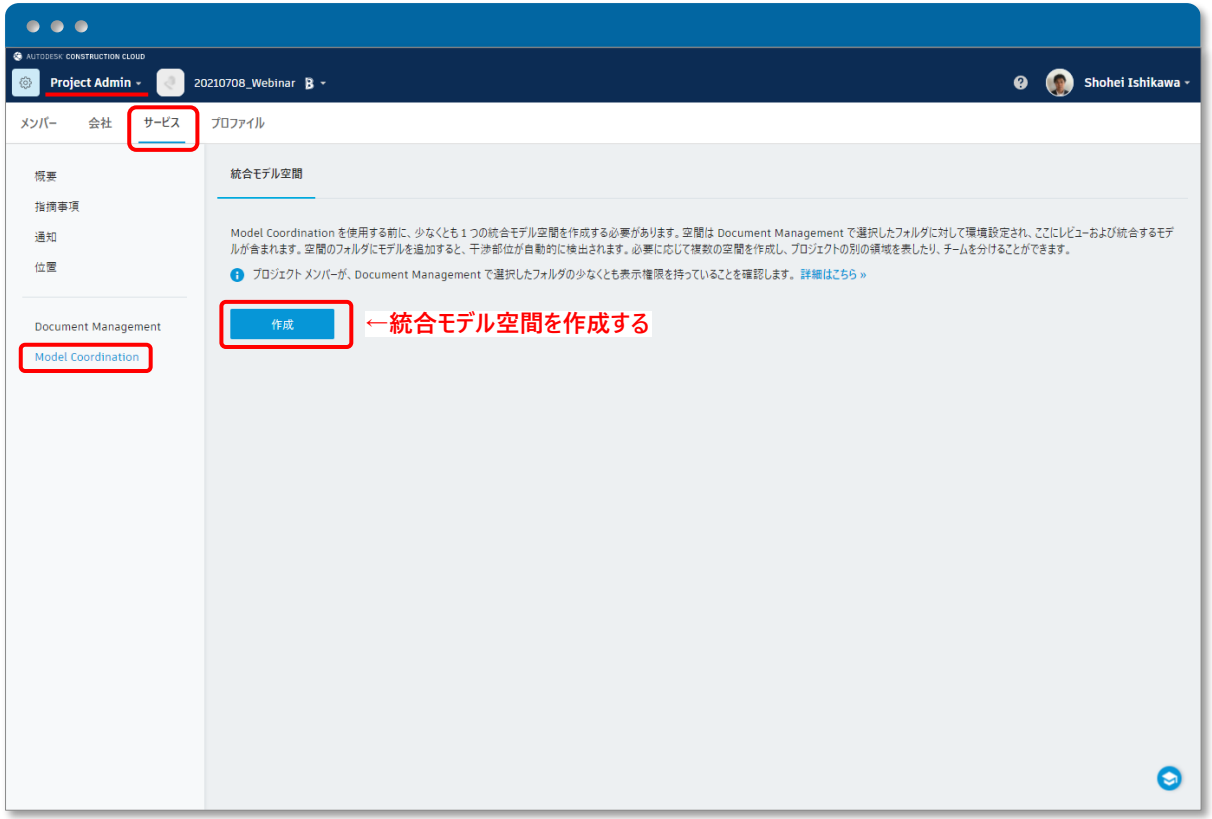
今回のデモではBIM360を利用します

アカウント管理者

- **プロジェクトの作成**

プロジェクト管理者

- **モジュールのアクティベーション**
  - Document Management
  - Model Coordination
- **メンバーの追加とモジュールの割り当て**
- **Document Managementの設定**
  - フォルダの作成と権限設定
- **Model Coordinationの設定**
  - 作成したフォルダを統合空間に指定



ACC/BIM360のプロジェクトやモジュールの準備

Project AdminにてModel Coordinationの設定

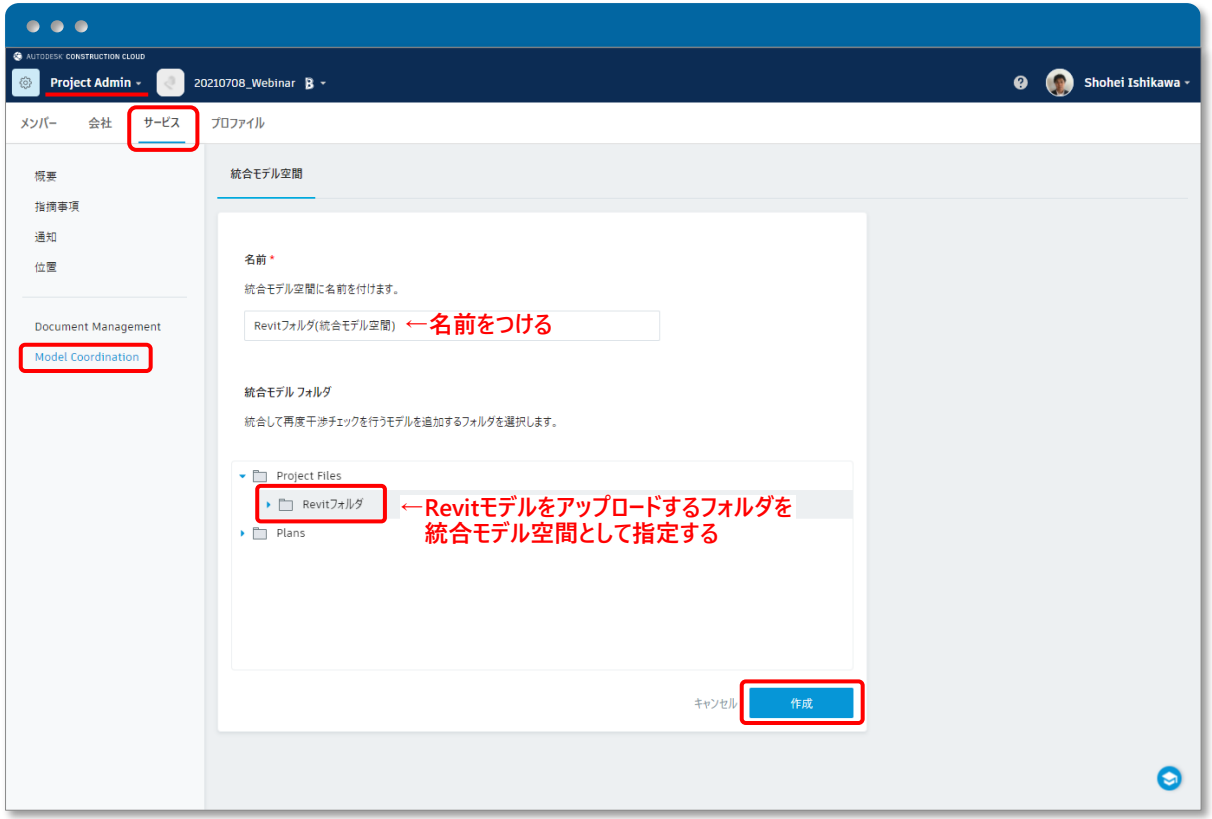
今回のデモではBIM360を利用します

アカウント管理者

- プロジェクトの作成

プロジェクト管理者

- モジュールのアクティベーション
  - Document Management
  - Model Coordination
- メンバーの追加とモジュールの割り当て
- Document Managementの設定
  - フォルダの作成と権限設定
- Model Coordinationの設定
  - 作成したフォルダを統合空間に指定



ACC/BIM360のプロジェクトやモジュールの準備

Model Coordination

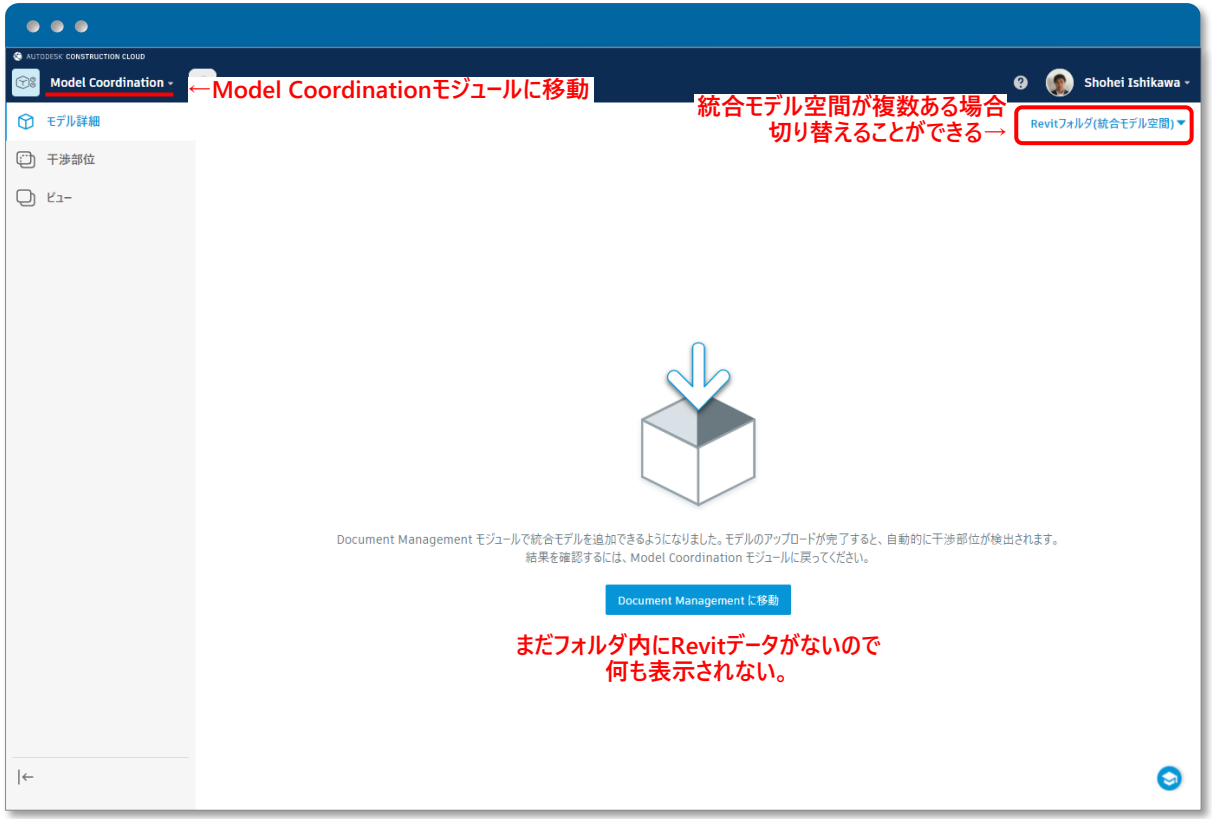
今回のデモではBIM360を利用します

アカウント管理者

- プロジェクトの作成

プロジェクト管理者

- モジュールのアクティベーション
  - Document Management
  - Model Coordination
- メンバーの追加とモジュールの割り当て
- Document Managementの設定
  - フォルダの作成と権限設定
- Model Coordinationの設定
  - 作成したフォルダを統合空間に指定



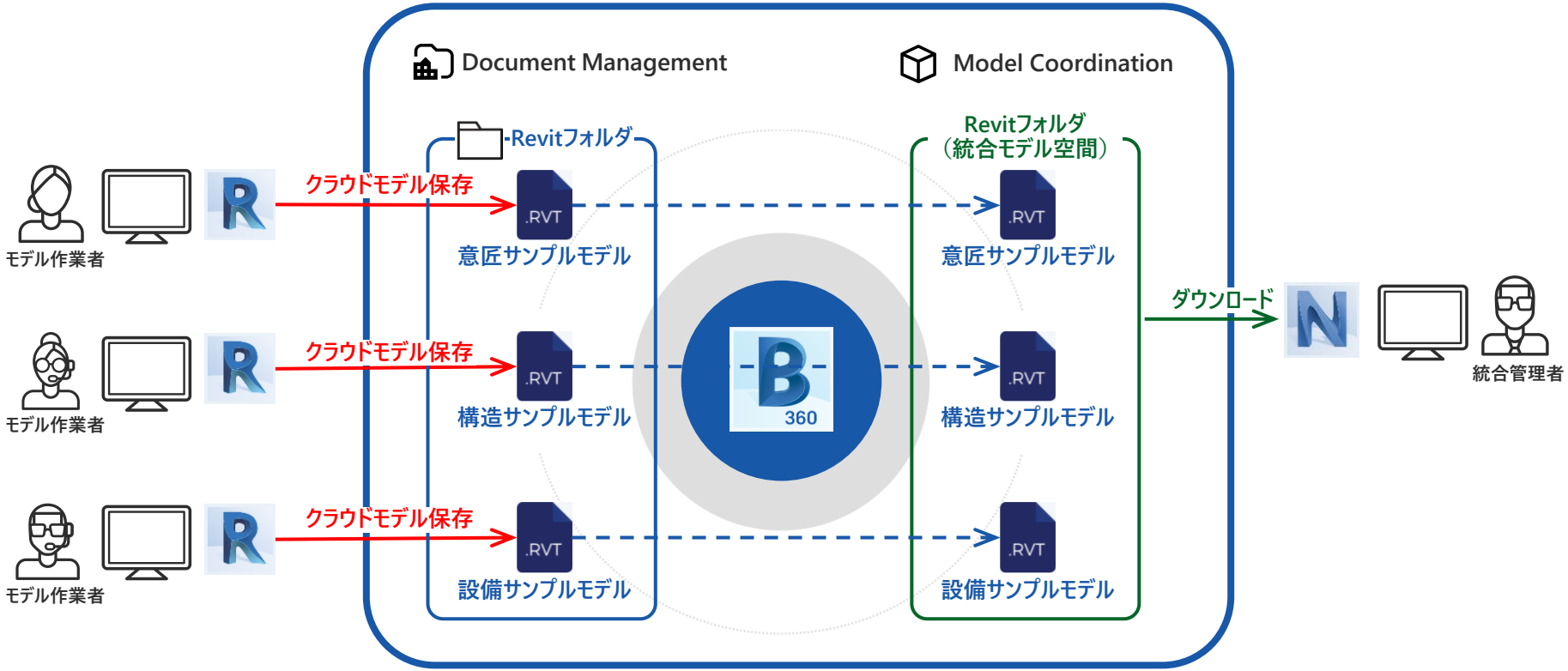
RevitやNavisworksとACC/BIM360の連携

Revit、NavisworksからACC/BIM360へのアクセス方法

- RevitからACC/BIM360へのアクセス（クラウドモデル保存）
- NavisworksからModel Coordinationへのアクセス

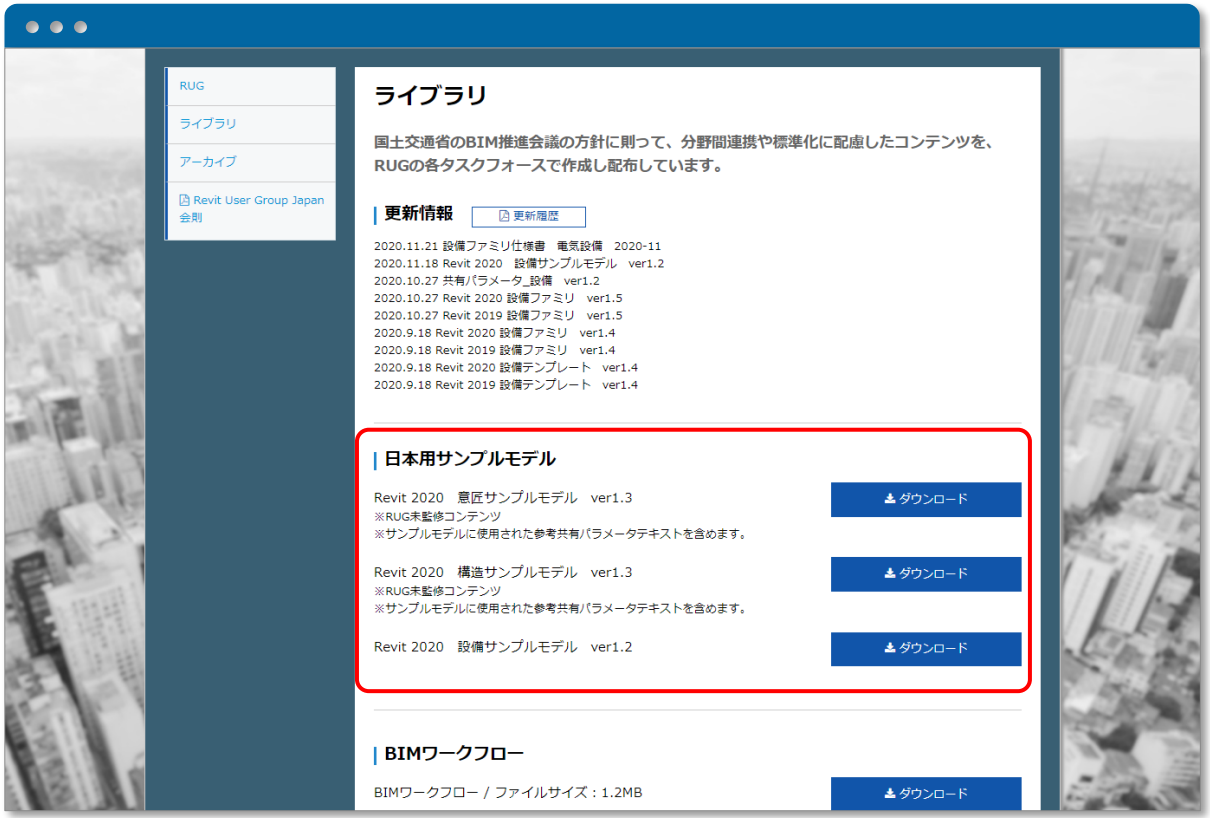
本日の想定ワークフロー

RevitからACC/BIM360に保存した複数のBIMモデルを、Navisworksに取り込む



サンプルモデルの入手：RUGライブラリ（BIM Design内）

http://bim-design.com/rug/library/

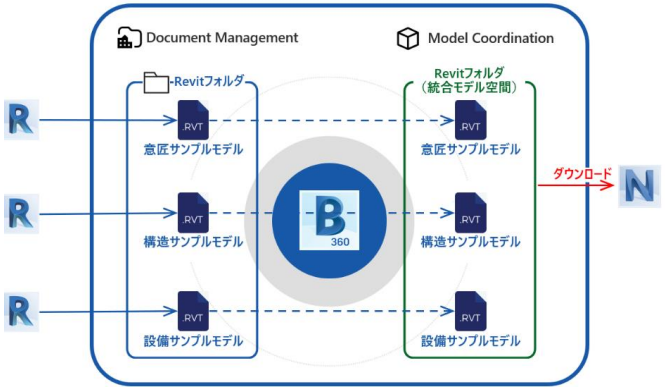


RevitからBIM360にデータを保存する(クラウドモデル保存)

Revitの操作

- ホームビューにてBIM360にアクセスできることを確認する

ホームビューでは、インターネットを経由してBIM360を確認している



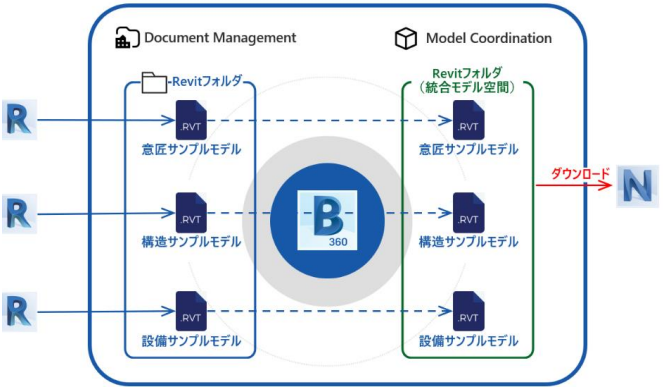
自分のAutodeskアカウントでサインインしていることを確認 ↓

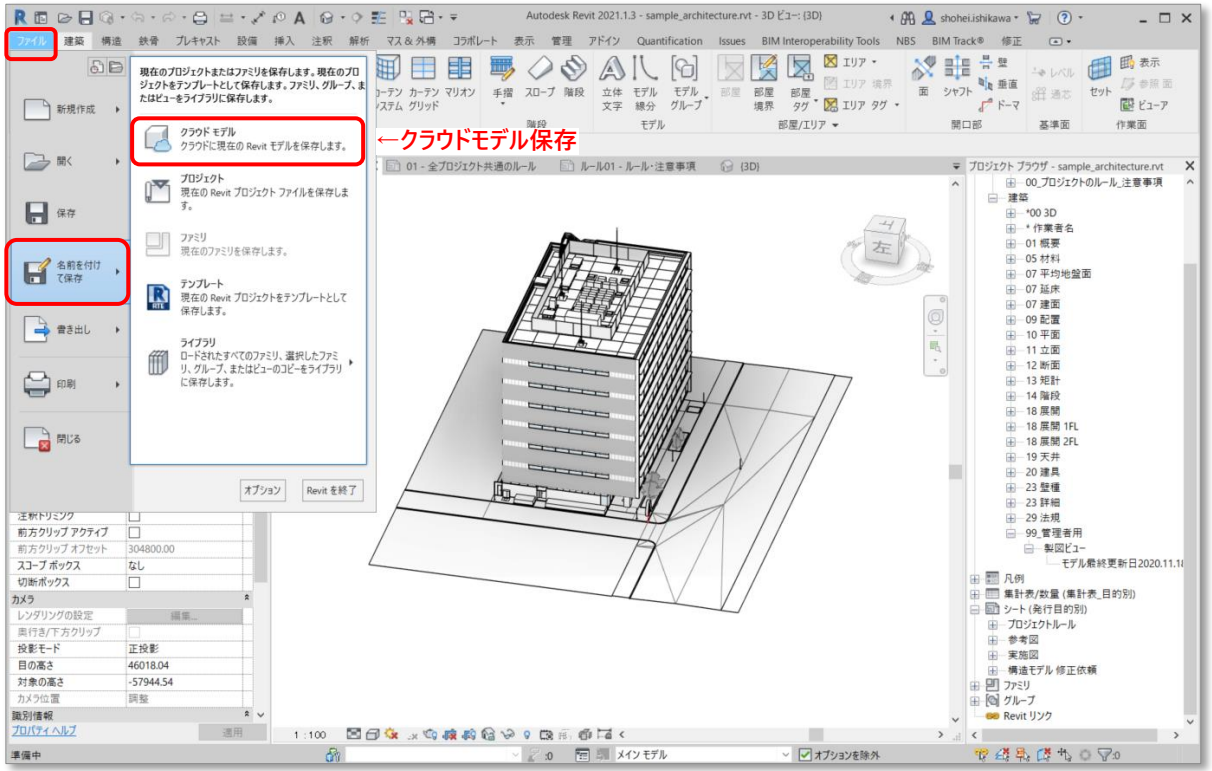
※Revitからクラウドモデル保存したデータファイルのみ、Revitから開くことが可能

RevitからBIM360にデータを保存する(クラウドモデル保存)

Revitの操作

- 保存するRevitファイルを開く
  →「名前を付けて保存」
  →「クラウドモデル」





RevitからBIM360にデータを保存する(クラウドモデル保存)

Revitの操作

- 保存するRevitファイルを開く

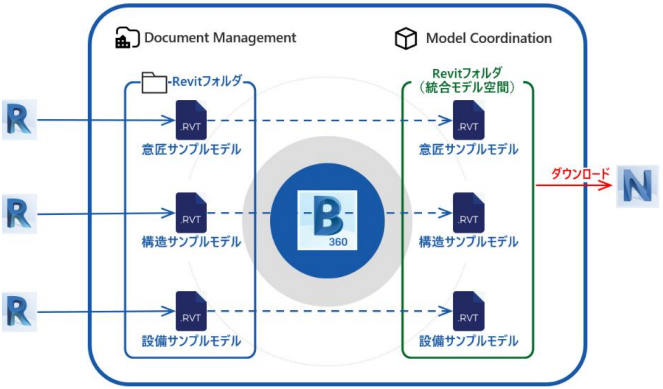
  →「名前を付けて保存」

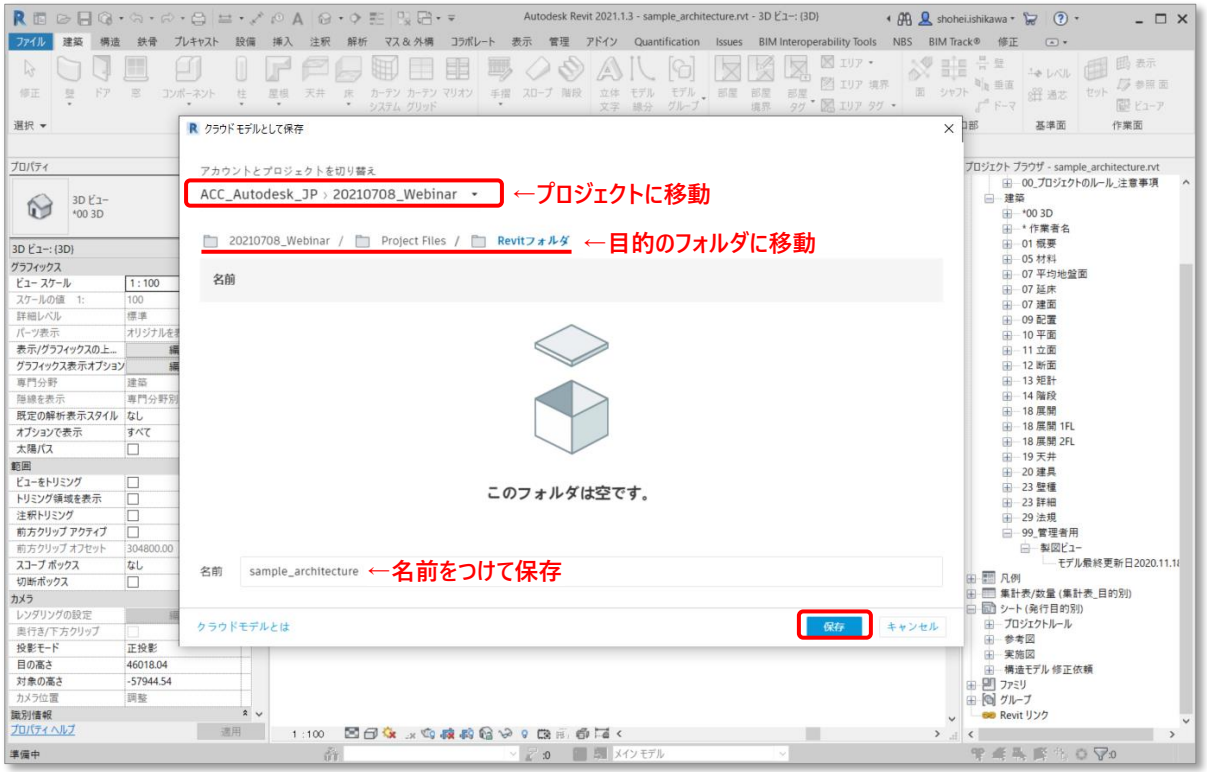
  →「クラウドモデル」

※意匠サンプルモデルのクラウドモデル保存で
1～3分くらい掛かります。

それよりも長い時間がかかる場合は、
ネットワーク回線が遅い可能性や
社内ネットワークに制限がかかっている可能性があります。

情報システム部などにお問い合わせください。

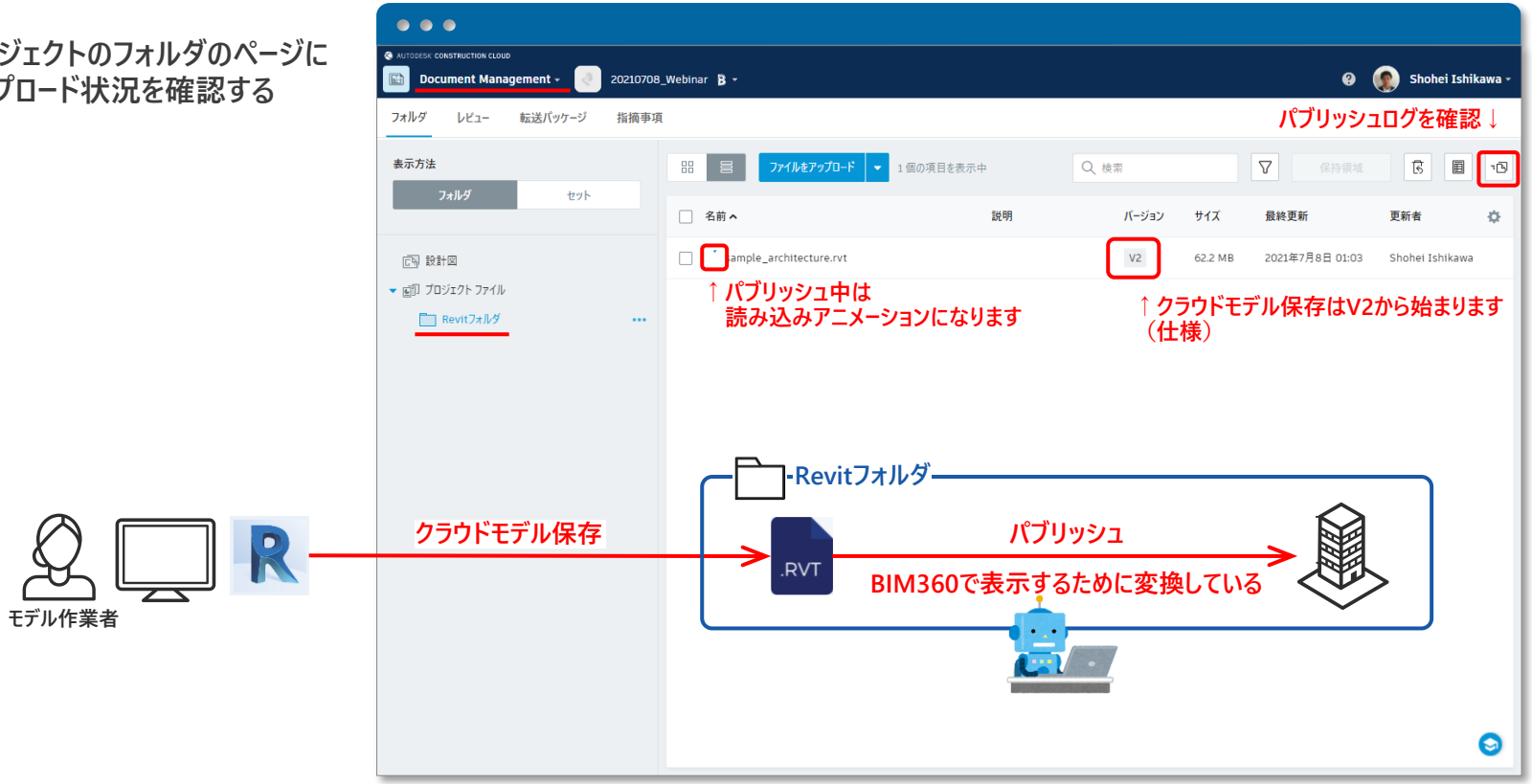




RevitからBIM360にデータを保存する(クラウドモデル保存)

BIM360側で確認

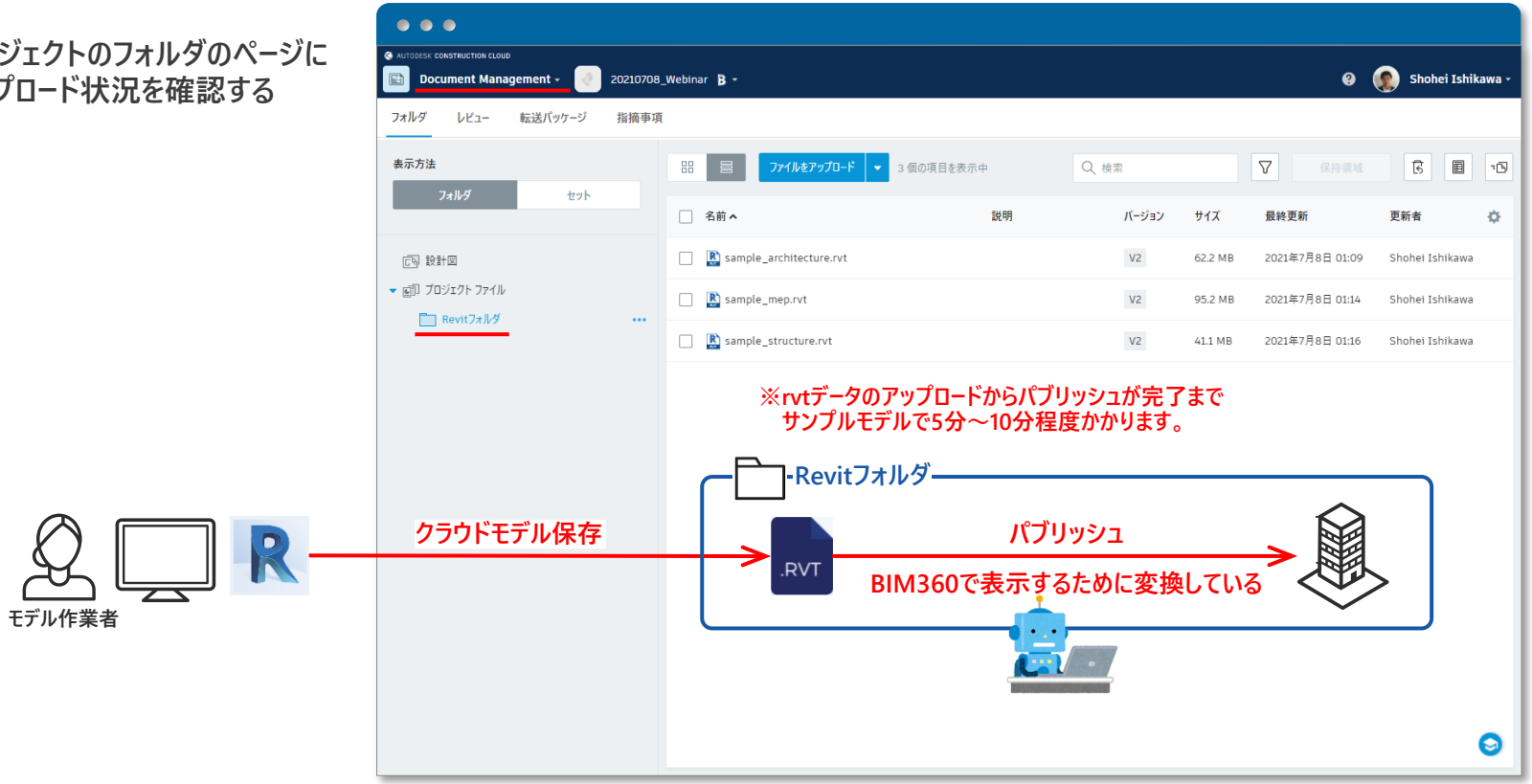
- 作成したプロジェクトのフォルダのページに移動し、アップロード状況を確認する



RevitからBIM360にデータを保存する(クラウドモデル保存)

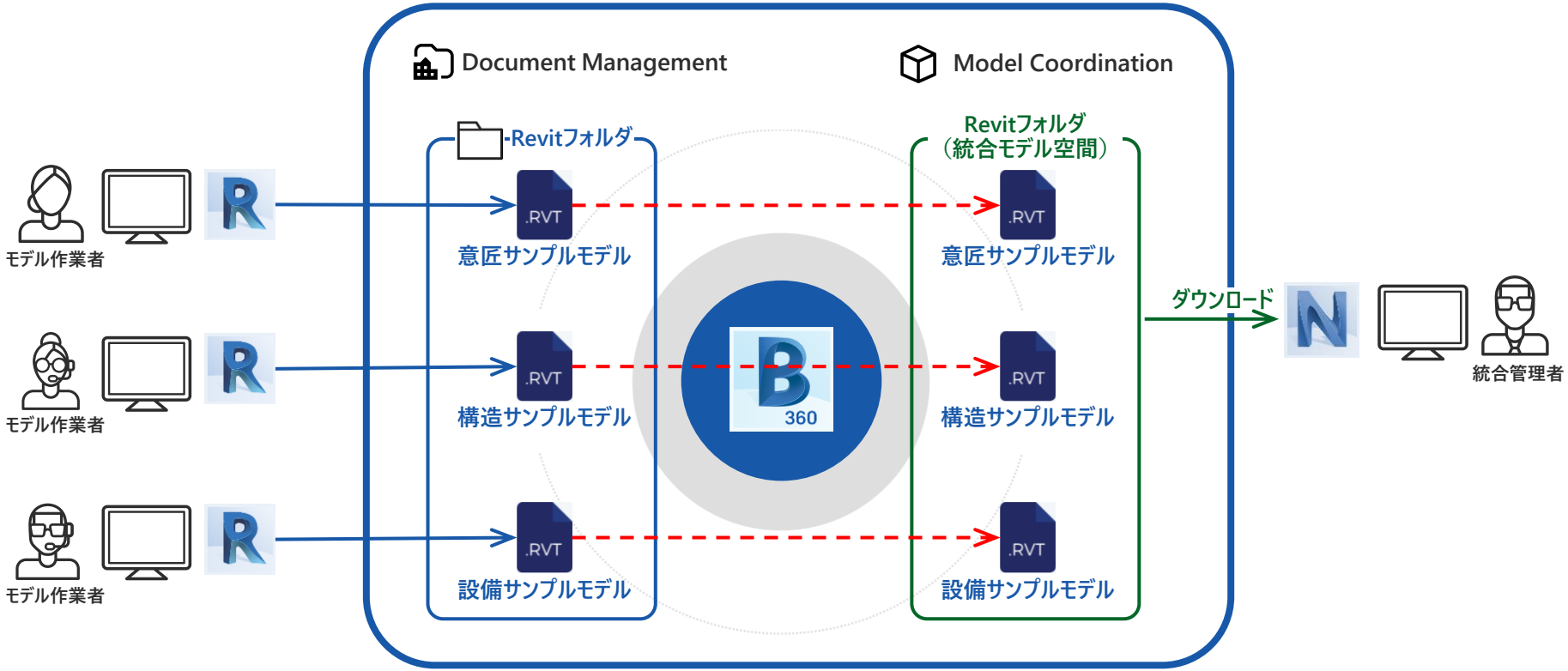
BIM360側で確認

- 作成したプロジェクトのフォルダのページに移動し、アップロード状況を確認する



本日の想定ワークフロー

RevitからACC/BIM360に保存した複数のBIMモデルを、Navisworksに取り込む

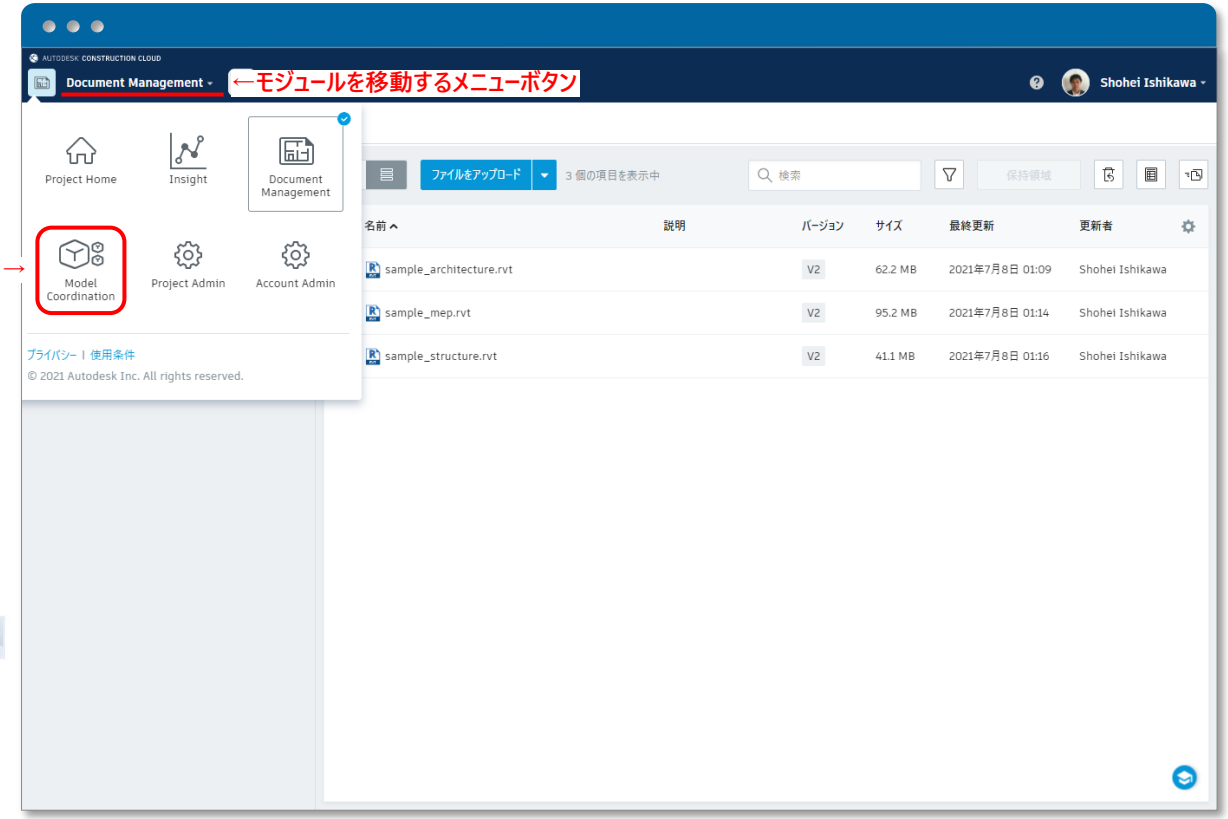


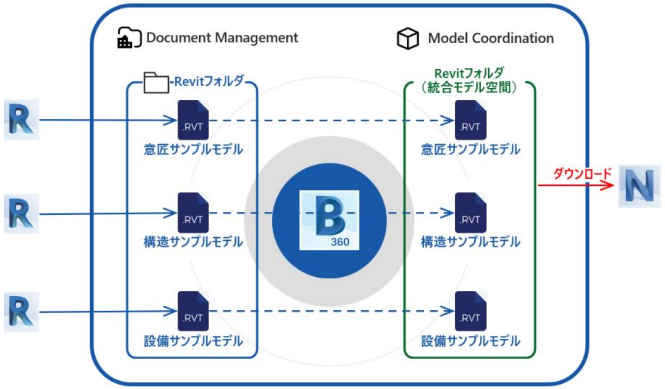
Model Coordinationでモデルを確認

予めフォルダと紐付けた統合モデル空間を確認する

- Document ManagementからModel Coordinationに移動する

右クリックから「新しいタブで開く」をすると便利→

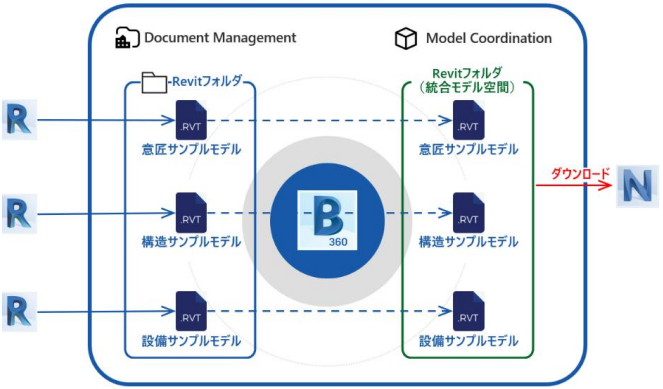


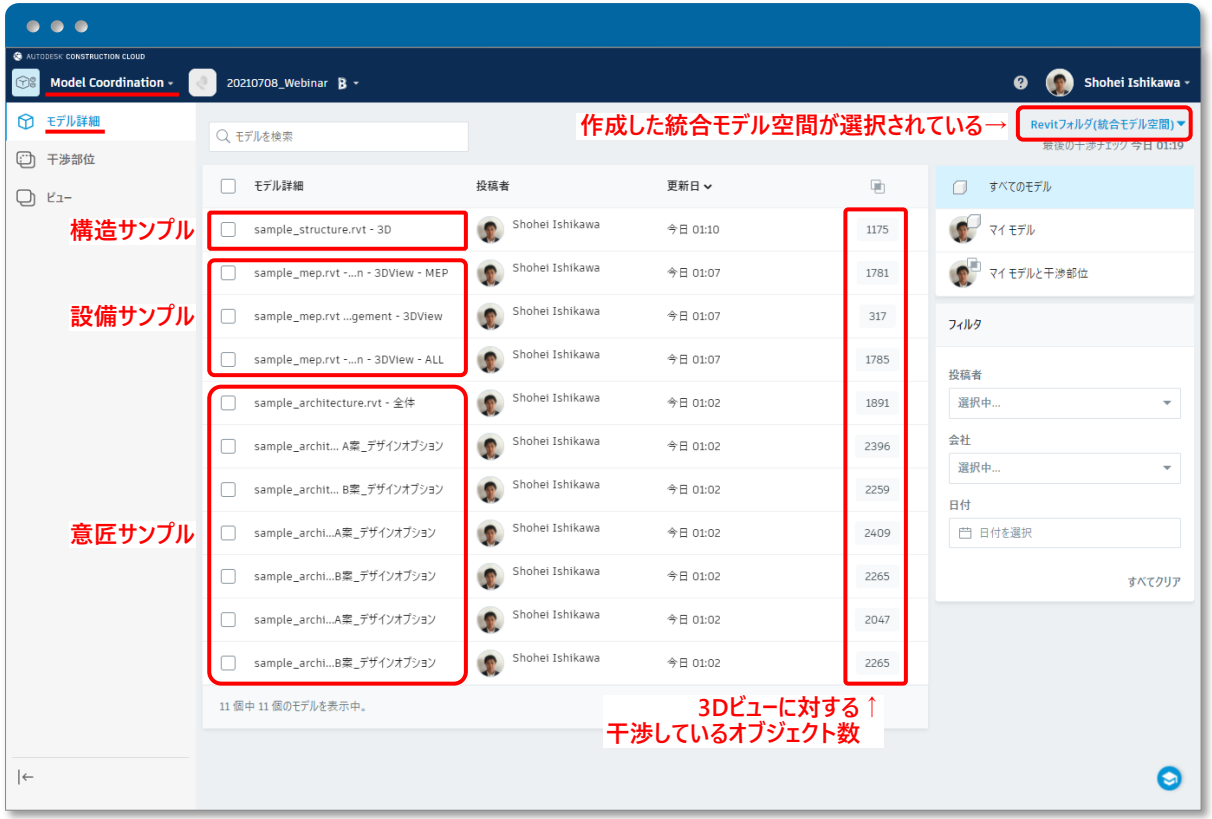


Model Coordinationでモデルを確認

予めフォルダと紐付けた統合モデル空間を確認する

- 予め作成したフォルダと紐付けた「統合モデル空間」にモデルが追加されている。
- モデルは、rvt単位ではなく3Dビュー単位





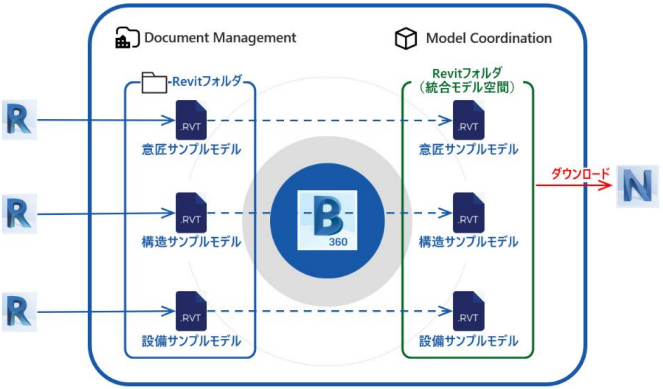
Model Coordinationでモデルを確認

予めフォルダと紐付けた統合モデル空間を確認する

- 予め作成したフォルダと紐付けた「統合モデル空間」にモデルが追加されている。
- モデルは、rvt単位ではなく3Dビュー単位

[干渉チェック]

- rvtをアップロードした時点で各3Dビュー同士に対して干渉チェックを行い、干渉が起きているオブジェクト数を自動算出している



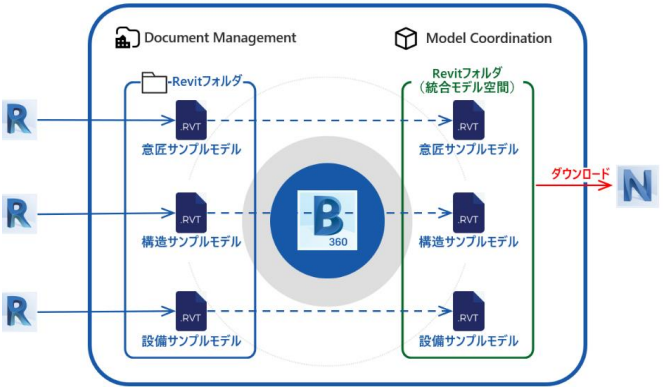
Model Coordinationでモデルを確認

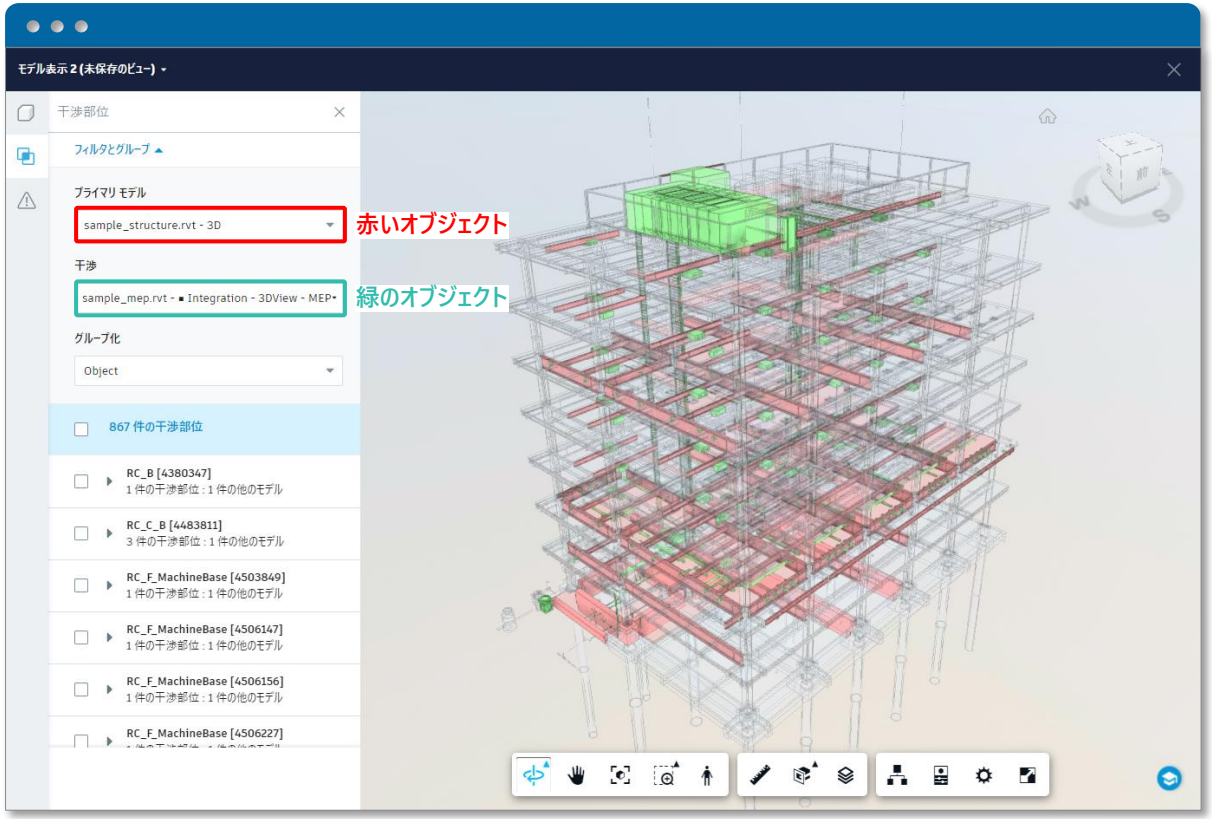
予めフォルダと紐付けた統合モデル空間を確認する

- 予め作成したフォルダと紐付けた「統合モデル空間」にモデルが追加されている。
- モデルは、rvt単位ではなく3Dビュー単位

[干渉チェック]

- rvtをアップロードした時点で各3Dビュー同士に対して干渉チェックを行い、干渉が起きているオブジェクト数を自動算出している





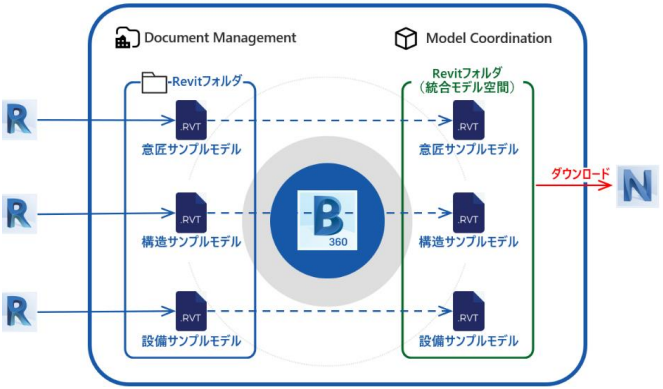
Model Coordinationでモデルを確認

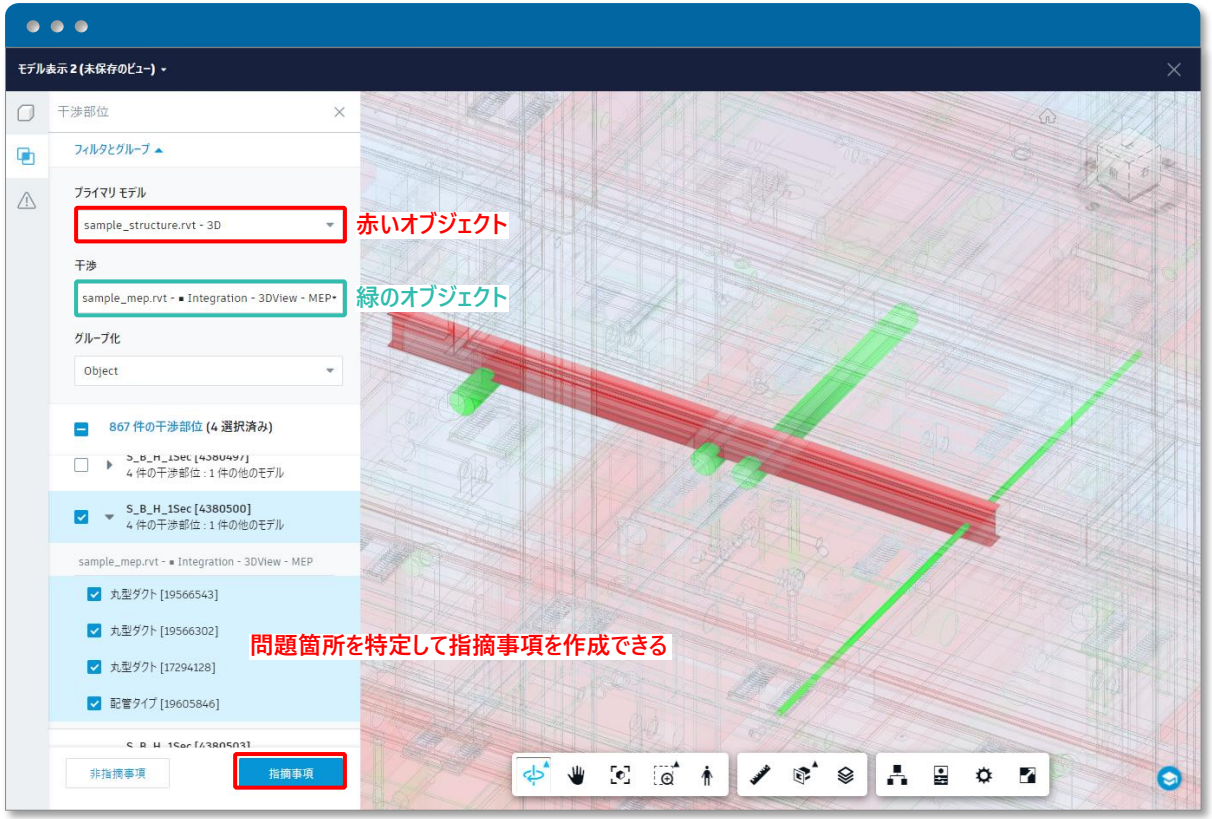
予めフォルダと紐付けた統合モデル空間を確認する

- 予め作成したフォルダと紐付けた「統合モデル空間」にモデルが追加されている。
- モデルは、rvt単位ではなく3Dビュー単位

[干渉チェック]

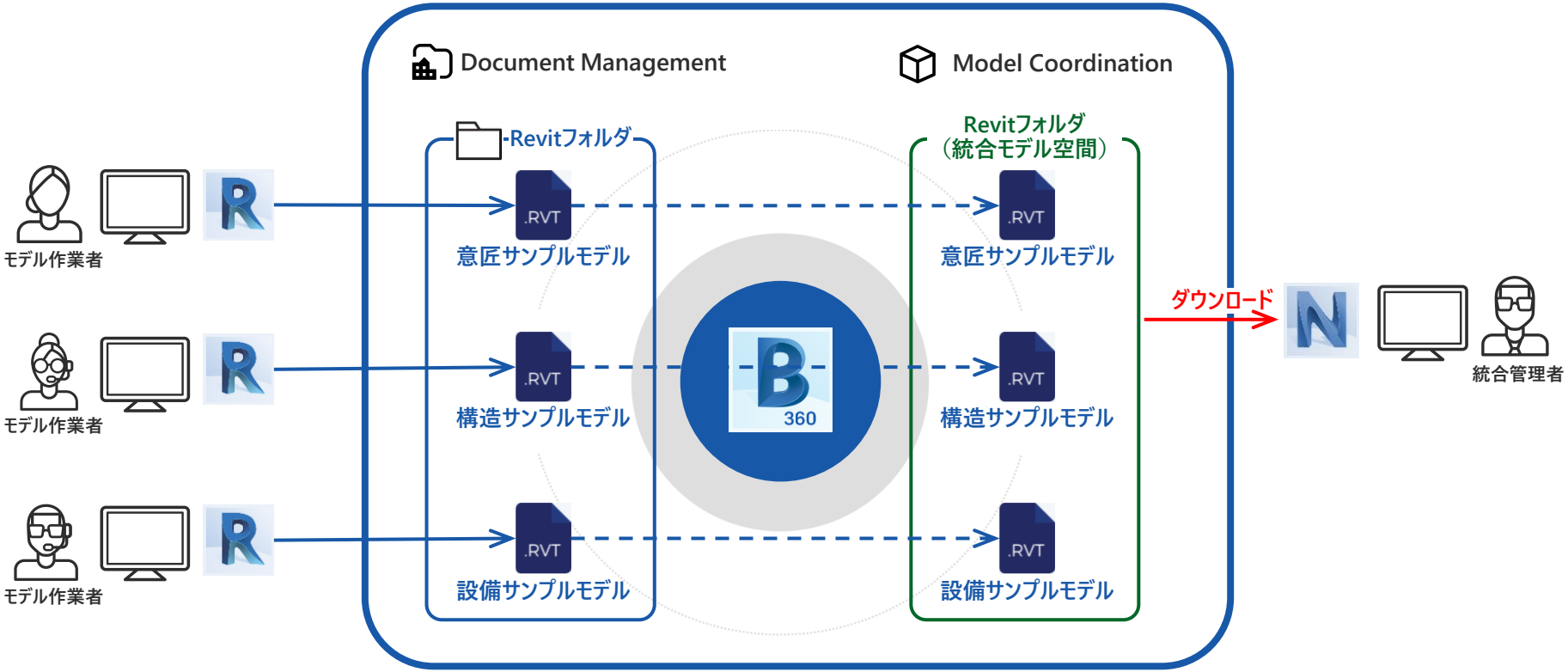
- rvtをアップロードした時点で各3Dビュー同士に対して干渉チェックを行い、干渉が起きているオブジェクト数を自動算出している





本日の想定ワークフロー

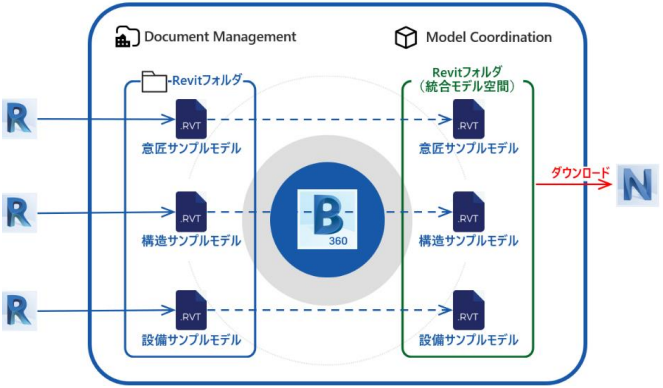
RevitからACC/BIM360に保存した複数のBIMモデルを、Navisworksに取り込む

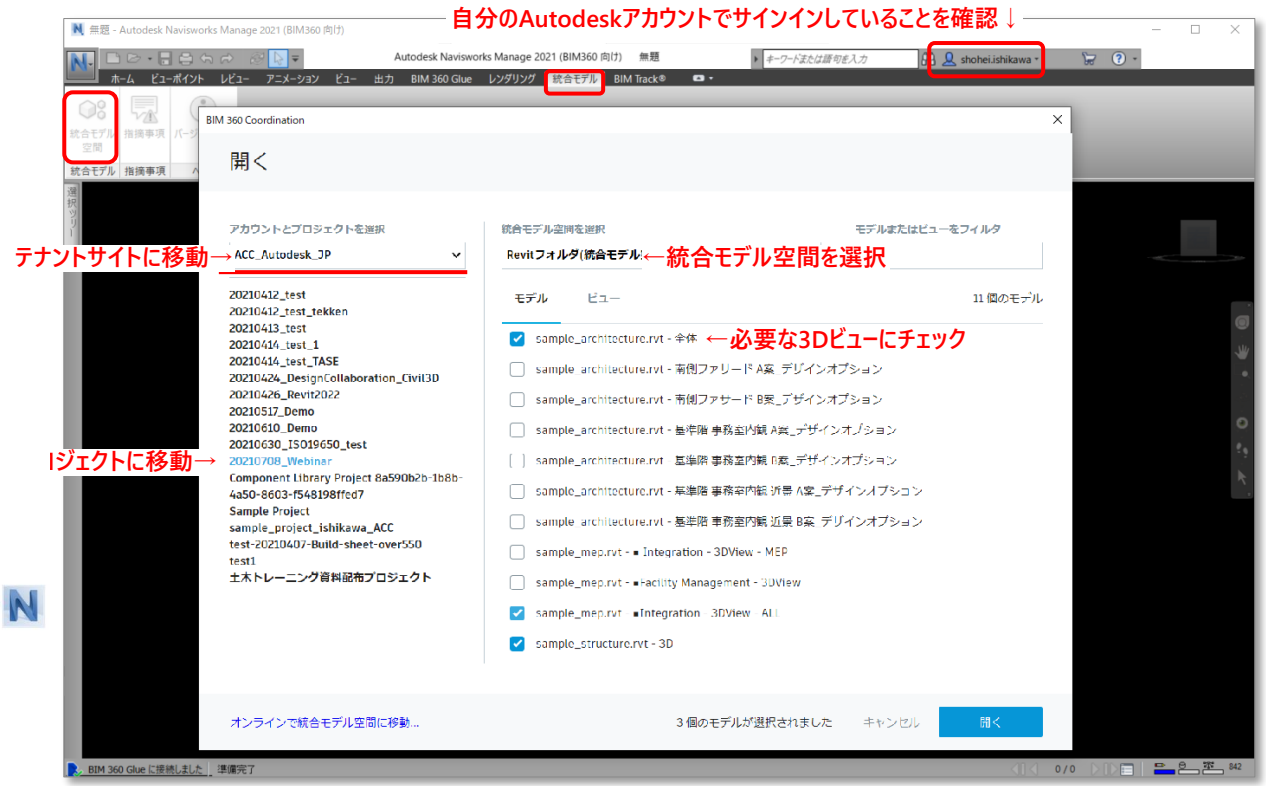


NavisworksからBIM360の統合モデル空間にアクセス

Navisworksの操作

- 統合モデルタブ
  →統合モデル空間
  →テナントサイトとプロジェクトを選択
  →目的の3Dビューにチェック



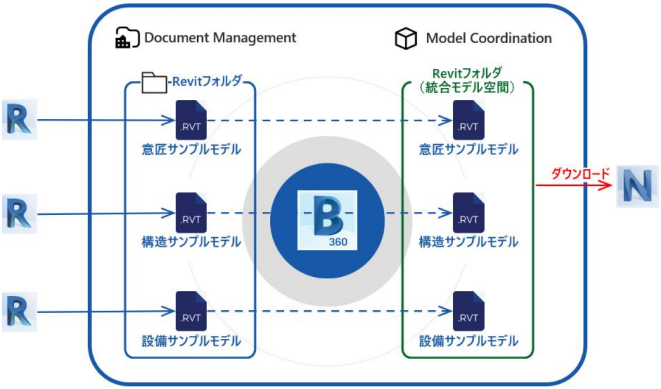


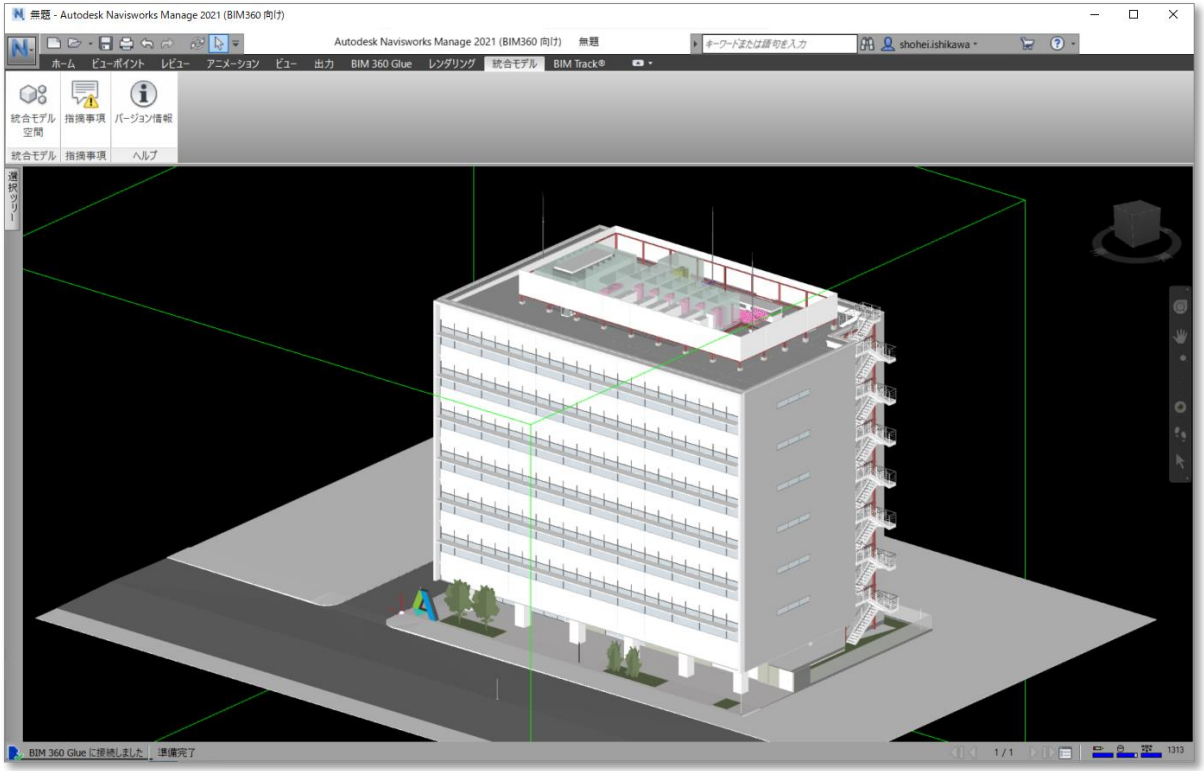
NavisworksからBIM360の統合モデル空間にアクセス

Navisworksの操作

- 統合モデルタブ
  →統合モデル空間
  →テナントサイトとプロジェクトを選択
  →目的の3Dビューにチェック

BIM360からRevitモデルをダウンロード





+α：BIM360にNavisworksデータの保存

Navisworksの操作

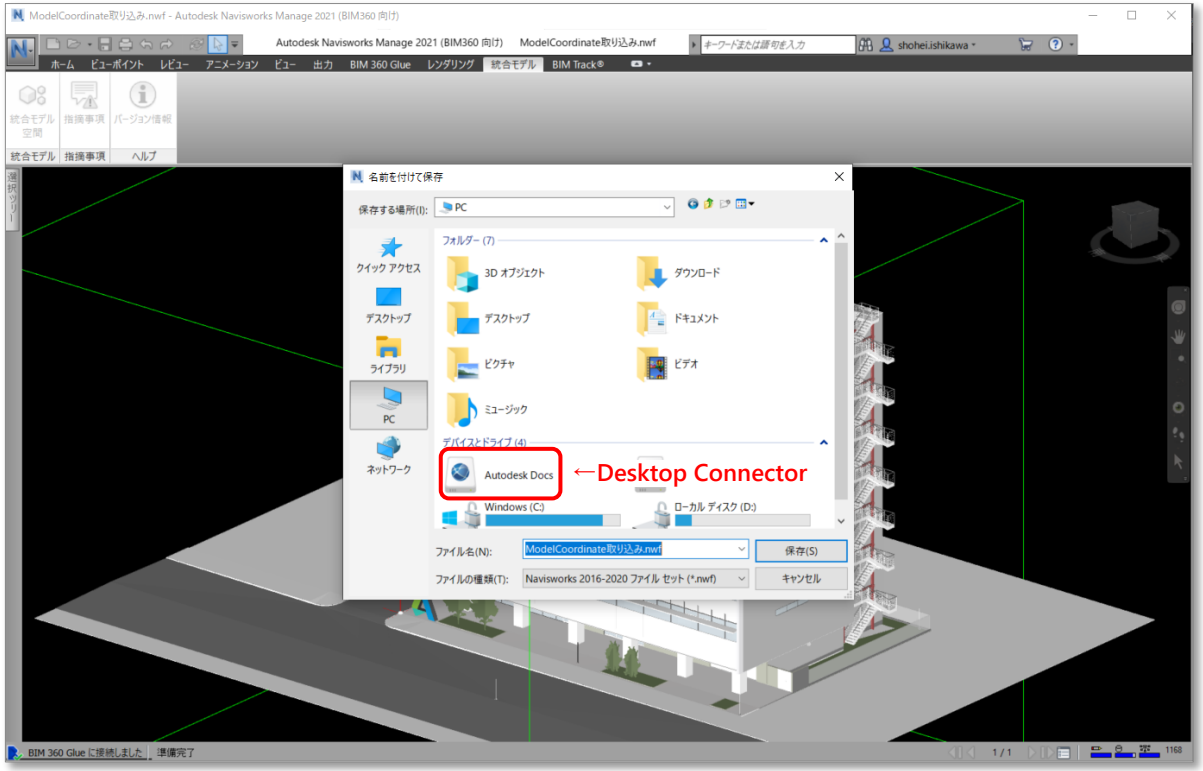
- 読み込んだモデルをnwdとしてBIM360に保存する

方法①

- ローカルに保存したデータをブラウザからBIM360にアップロードする

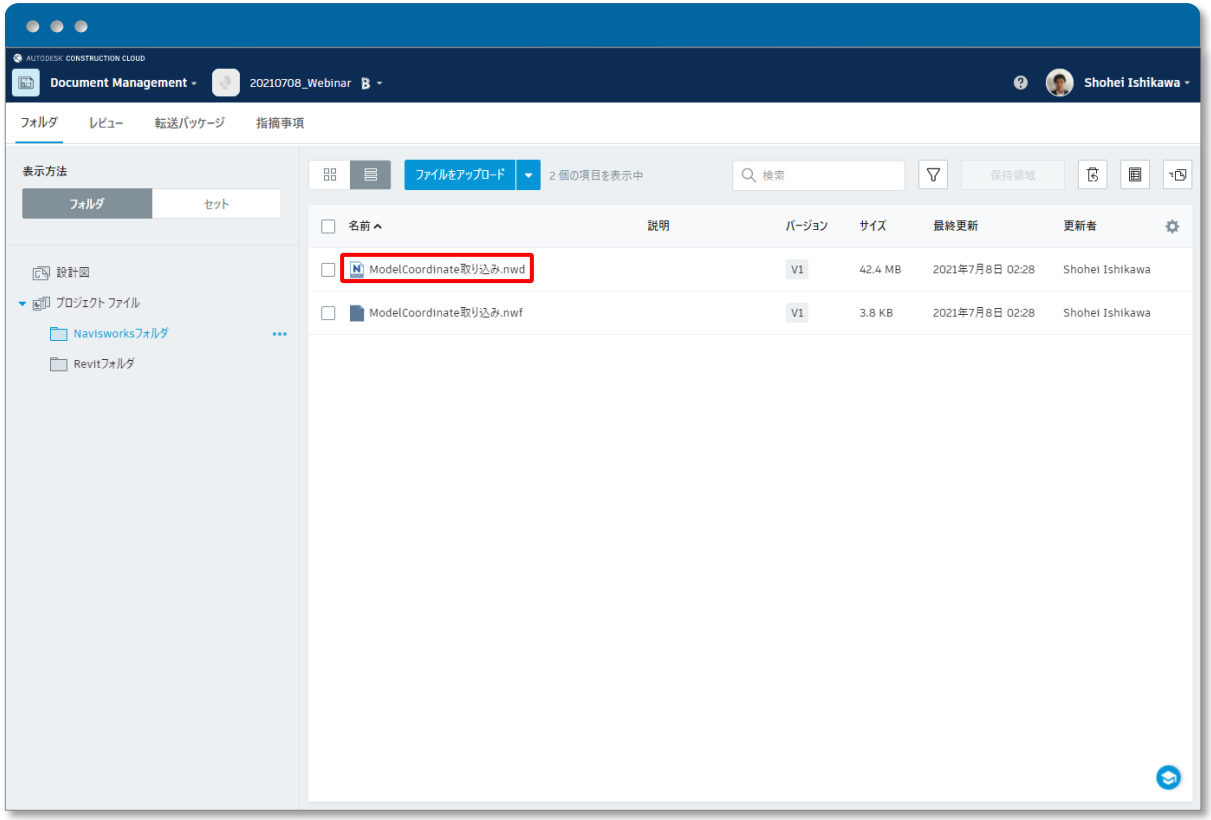
方法②

- Desktop Connectorを利用する



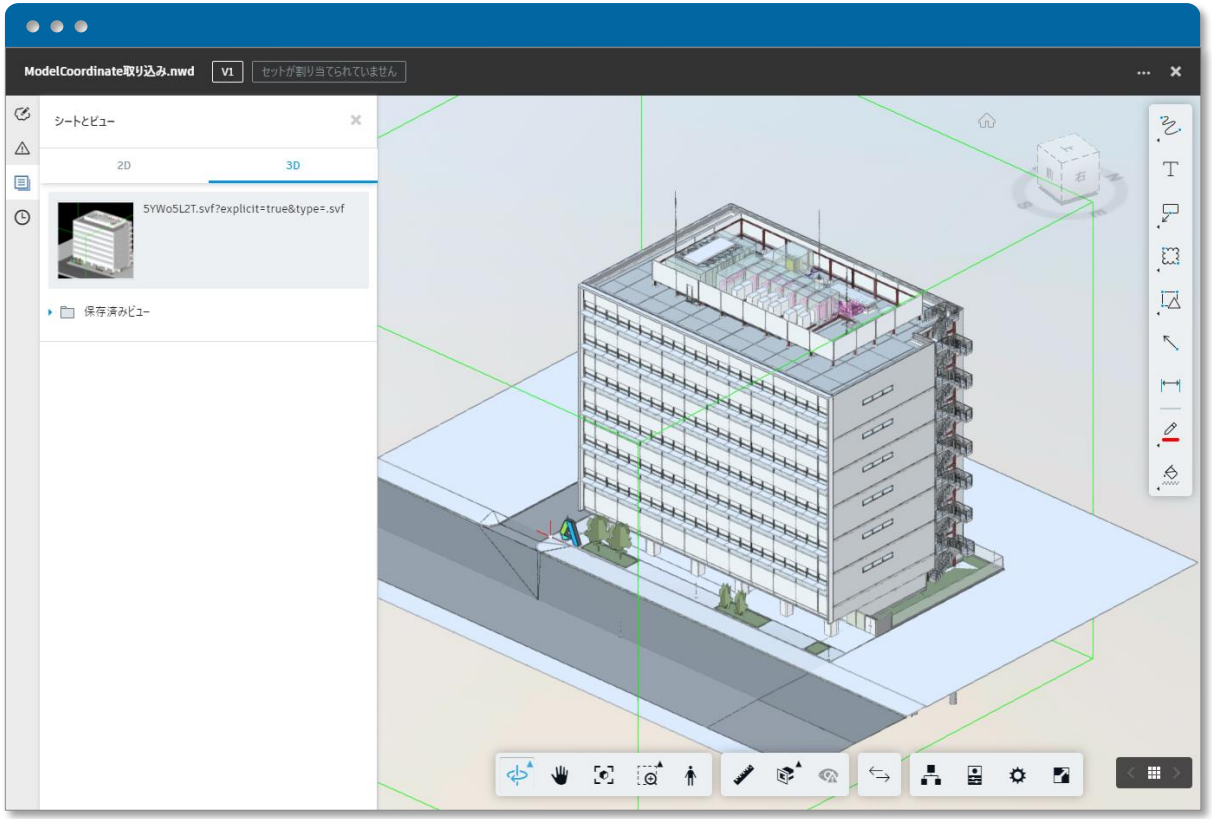
+α： BIM360に保存したNavisworksデータの確認

nwdファイルはブラウザで表示可能



+α： BIM360に保存したNavisworksデータの確認

nwdファイルはブラウザで表示可能



お知らせ/参考情報

BIM 360 活用オンラインセミナー

今後の予定

8月：オートデスクのクラウド製品によるISO19650対応（Autodesk Docs）

CDE(共通データ環境)を利用したISO19650ベースの業務マネージメント

https://gems.autodesk.com/ACC-0805

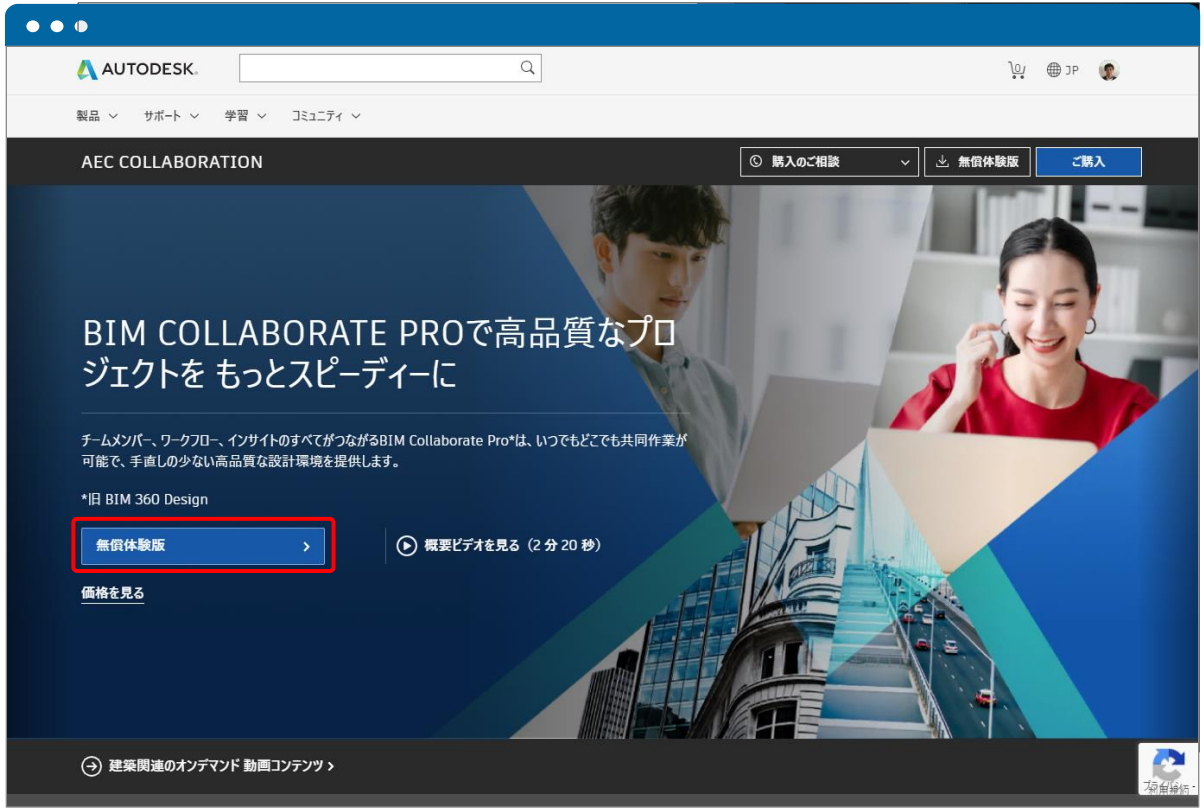
ご質問、ご要望がある方は、
ぜひアンケートに記入をお願いします
（アンケートにご回答いただくと資料がダウンロードできます）

Japan.BIM360.Contact@autodesk.com

BIM Collaborate Pro トライアル

https://www.autodesk.co.jp/campaigns/aec-collaboration

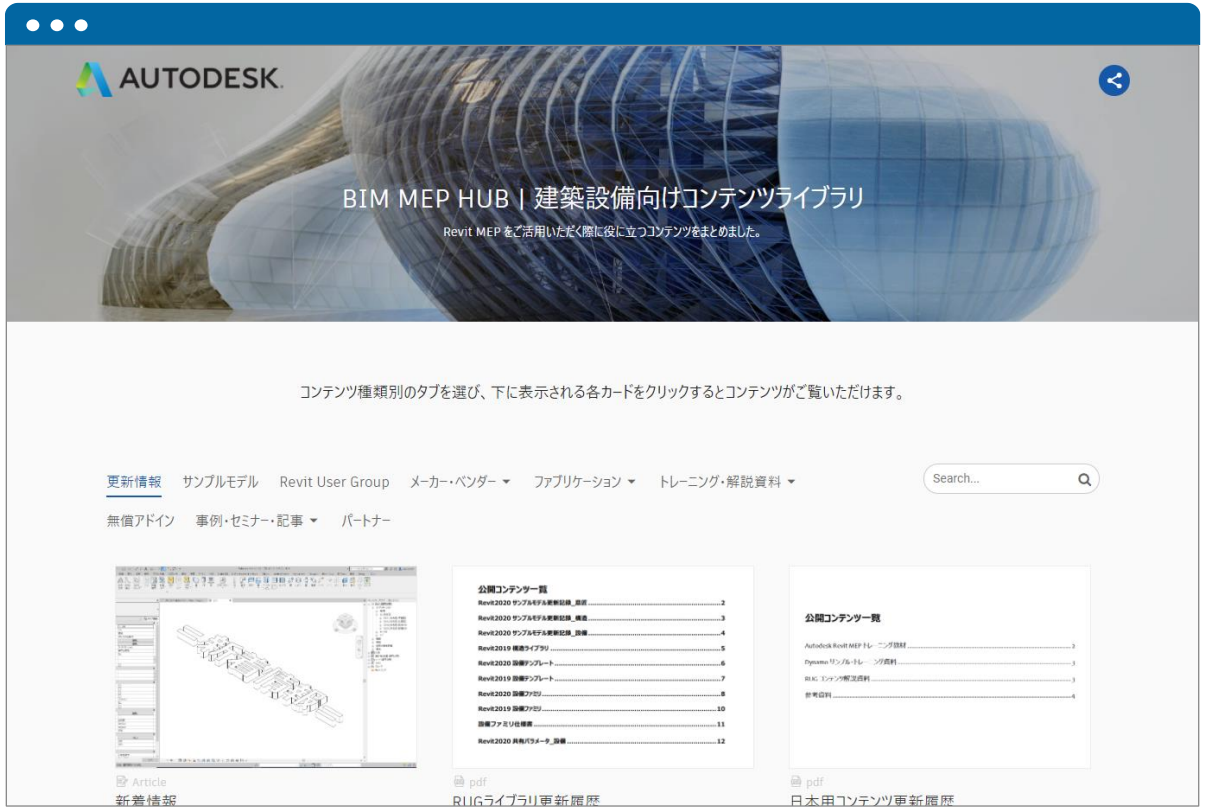
- 30日間の無料トライアル
  - 商用利用は不可になります。



トレーニング参考：BIM MEP HUB

https://boards.autodesk.com/revit-mep-resources

- 建築設備向けコンテンツライブラリ
- トレーニング資料だけでなく、メーカーのファミリやサンプルモデル、Revit User Groupのコンテンツなども掲載



トレーニング参考：BIM-Design(建築)「自己学習教材」

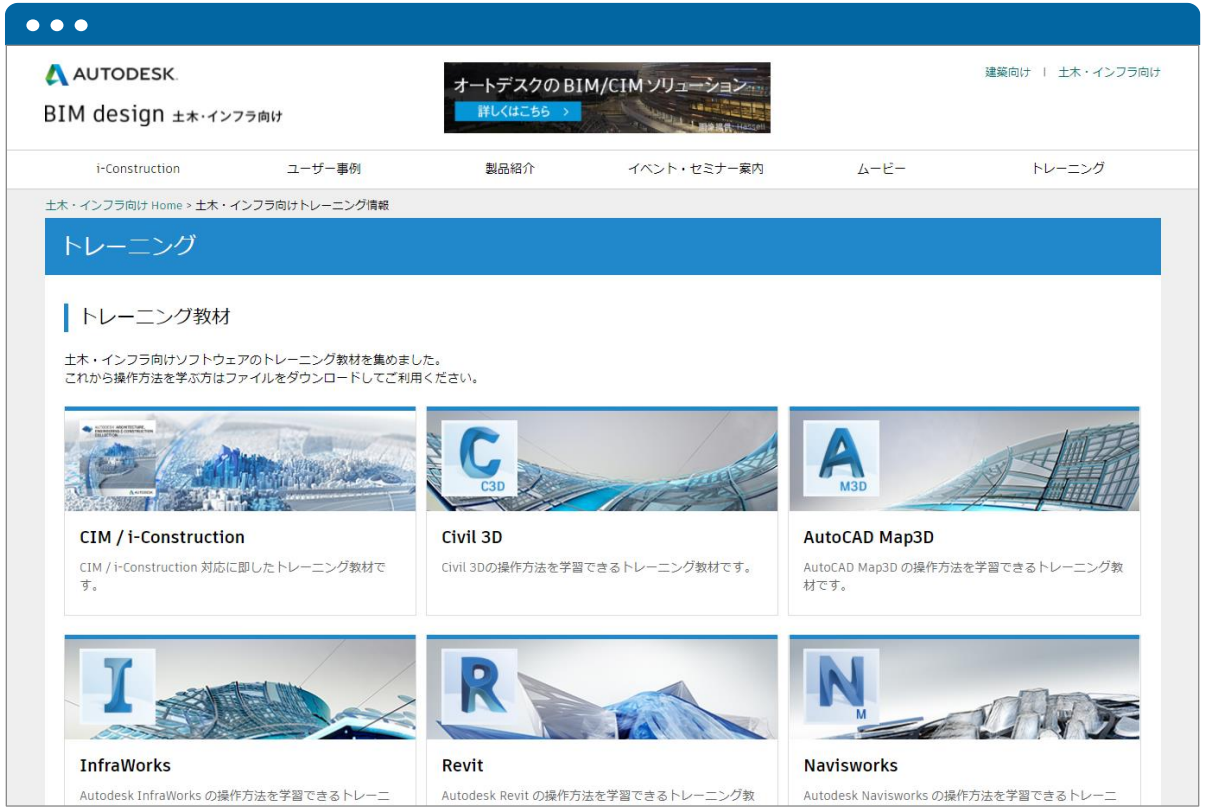
http://bim-design.com/learning/mep.html

- 建築向けページ内
- 各種トレーニング教材
- 最近はMEP（電気設備）やDynamoのトレーニング資料もあります

トレーニング参考：BIM-Design(土木)「トレーニング」

http://bim-design.com/infra/training/

- 土木向けページ内
- Civil 3DやInfraWorksだけでなくRevitやDynamoのトレーニング資料もあります。
- 業界問わずご参考にどうぞ



トレーニング参考：BIMオープンカレッジ

https://knowledge.autodesk.com/ja/community/collection/bimオープンカレッジ

- Youtubeのトレーニングコンテンツを一箇所にまとめました
- Revitデータやパワーポイントもダウンロードできます
  - 少しバージョンは古いですが、今でも十分勉強になるトレーニング動画だと思います

サブスクリプションライセンスの設定に関する情報

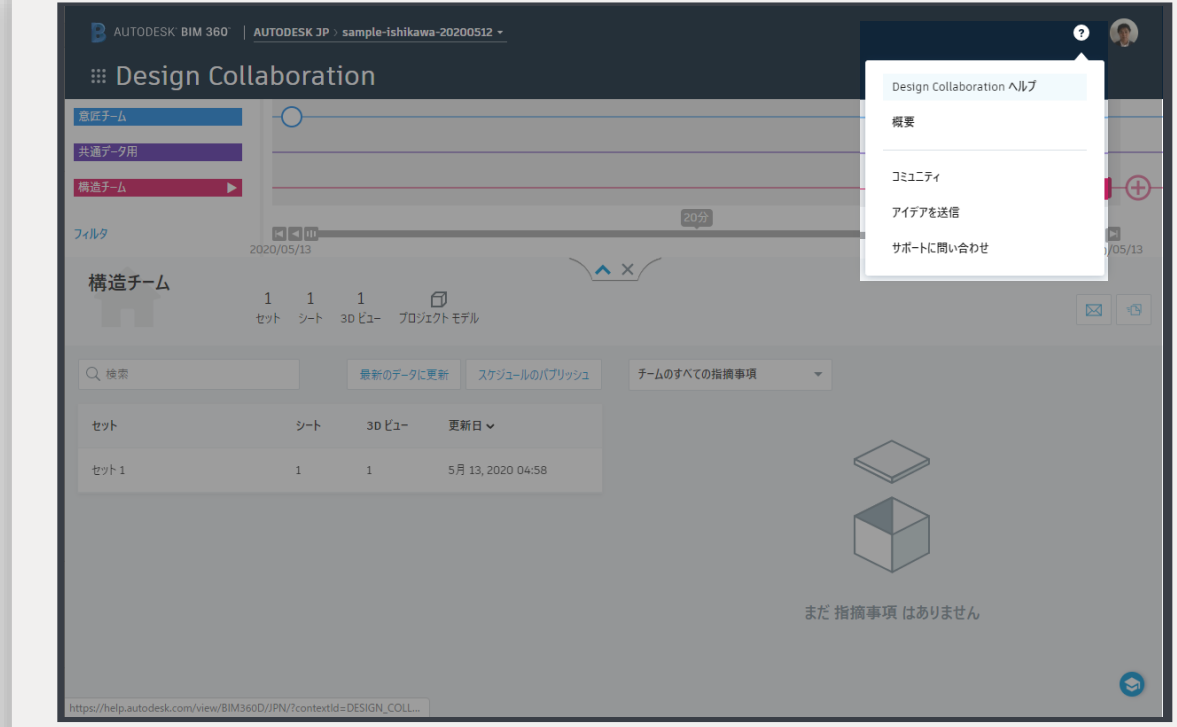
https://www.autodesk.co.jp/products/subscription-startup

- Autodesk Accountの活用のヒント
  - 複雑なライセンスやアカウント設定に関する情報を網羅しました
  - 動画を使い分かりやすく解説
  - サブスクリプション購入後の問合せ窓口もこちら

サポートについて：ヘルプページ

ページはこちら

- 操作が分からない時は…
  - 最初は画面右上のヘルプをご参照ください。



サポートについて：カスタマーサポート

ページはこちら

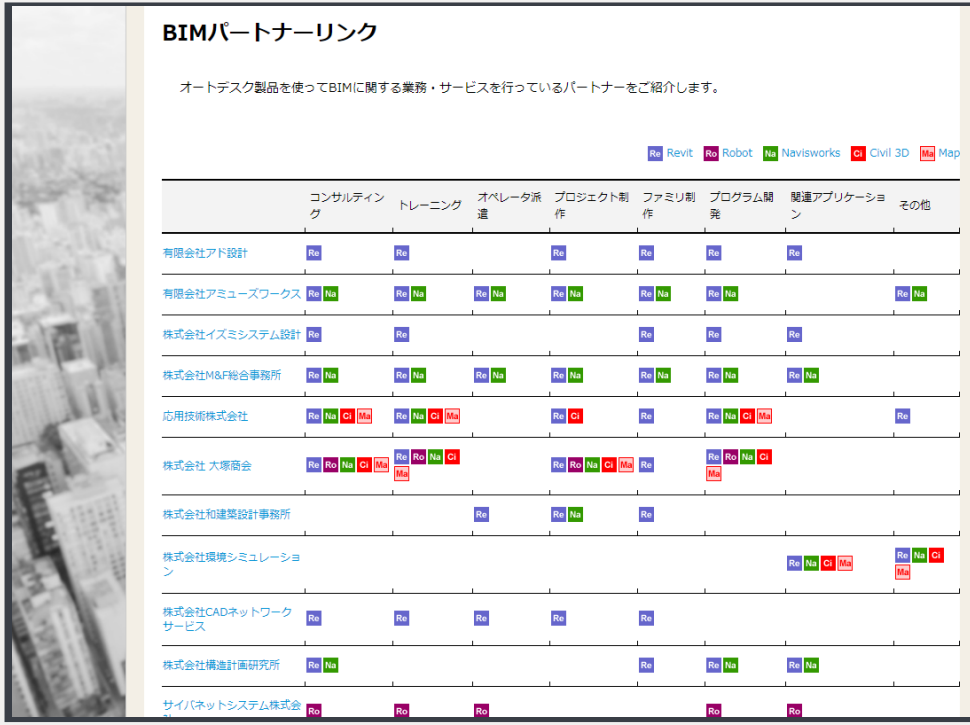
- **操作が分からない時は…**
  - 最初は画面右上のヘルプをご参照ください。
  - Autodesk Knowledge Networkのカスタマーサービスをご利用ください。
  - ただしサポートの対応範囲は主に技術的なトラブルやライセンス状況の確認などになります。

- 会社の状況に合わせた設定などBIM360の活用に対するサポートにつきましては、弊社パートナー企業さまにお問い合わせください。

サポートについて

BIMパートナーリンクは[こちら]

- **大塚商会**
  - BIMだけでなくICT利用を全面的にサポート
  - autodesk-promo@otsuka-shokai.co.jp
- **応用技術 [toBIM]**
  - Revitの利便性をあげるBoot.oneやForgeの開発
  - https://tobim.net/bootone
- **SEEZ**
  - BIM360のトレーニングやコンサルティング
  - http://seez-inc.com/
- **CADネットワークサービス**
  - BIMの導入からトレーニングまで幅広くサポート
  - https://www.cadnet.co.jp/
- **CAPA**
  - Forgeの開発
  - https://www.capa.co.jp/



BIMパートナーリンク

オートデスク製品を使ってBIMに関する業務・サービスを行っているパートナーをご紹介します。

Re Revit　Ro Robot　Na Navisworks　Ci Civil 3D　Ma Map

	コンサルティング	トレーニング	オペレータ派遣	プロジェクト制作	ファミリ制作	プログラム開発	関連アプリケーション	その他
有限会社アド設計	Re	Re		Re	Re	Re	Re	
有限会社アミューズワークス	Re Na	Re Na	Re Na	Re Na	Re Na	Re Na		Re Na
株式会社イズミシステム設計	Re	Re			Re	Re	Re	
株式会社M&F総合事務所	Re Na	Re Na	Re Na	Re Na	Re Na	Re Na	Re Na	
応用技術株式会社	Re Na Ci Ma	Re Na Ci Ma		Re Ci	Re	Re Na Ci Ma		Re
株式会社 大塚商会	Re Ro Na Ci Ma	Re Ro Na Ci Ma		Re Ro Na Ci Ma	Re	Re Ro Na Ci Ma		
株式会社和建築設計事務所			Re	Re Na	Re			
株式会社環境シミュレーション							Re Na Ci Ma	Re Na Ci Ma
株式会社CADネットワークサービス	Re	Re	Re	Re	Re			
株式会社構造計画研究所	Re Na				Re	Re Na	Re Na	
サイバネットシステム株式会	Ro	Ro	Ro			Ro	Ro	

Forge Online:Technology Perspective from Japan内

https://adndevblog.typepad.com/technology_perspective/

- Forge Online
  - Autodesk Japanの開発チームによるブログの中に、Forge開発のヒントになる記事や動画をまとめたコンテンツが登場
  - Forgeの開発で役に立つ情報がまとめられています。

AUTODESK®

Make anything™